仙台市文化財調査報告書第 469 集

仙台平野の遺跡群28

平成 29 年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

燕沢遺跡第 15 次、中在家南遺跡第 10 次、今泉遺跡第 15 次

2018 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

仙台市内には現在約760箇所の史跡や天然記念物等の指定文化財が確認されており、このうち約610箇所が一般に遺跡と呼ばれている埋蔵文化財包蔵地です。

平成23年3月11日の東日本大震災から7年の月日が経ち、復興・創生期間2年目を迎えておりますが、個人住宅等の建築に伴う発掘届の件数や発掘調査の件数は、平成23年度以降、依然として震災前を上回る状況が継続しております。仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護と啓発に日々務めているところです。

本報告書には、個人住宅建築に伴って平成28～29年度に発掘調査を実施した、燕沢遺跡第15次調査、中在家南遺跡第10次調査、今泉遺跡第15次調査の調査結果を収録しています。

文化財は、地域の歴史を伝えるために将来へ守るべき大切な財産です。先人たちの遺した貴重な文化遺産を保存し、活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちの大切な役割であると思います。それは地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根底をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より深く感謝申し上げます。

平成30年3月

仙台市教育委員会
教育長　大越　裕光

例　　言

1．本書は、平成28年度および29年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書であり、燕沢遺跡第15次、中在家南遺跡第10次、今泉遺跡第15次の各発掘調査報告を合本にしたものである。

本書の内容は、すでに公開されている遺跡見学会資料や、各種の発表会資料に優先する。

2．本書の本文執筆・挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担し、編集は及川謙作が行った。

第1章・第4章－及川謙作　第2章第1節－妹尾一樹　第3章第1節－髙橋純平　第3章第2節－小林　航

遺物の基礎整理～実測図作成－佐藤洋、向田整理室作業員

遺物図・遺構図デジタルトレース－向田整理室作業員

遺物観察表作成－佐藤　洋、斎野裕彦　　遺構註記表作成－各担当職員

遺物写真撮影・図版作成－及川謙作、向田整理室作業員　　遺構写真図版作成－各担当職員、及川謙作

3．出土遺物の鑑定は、佐藤洋と斎野裕彦が行った。

4．本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．文中および図中の方位は真北を示している。

2．図中の標高を測定した基準点のデータは平成23年3月11日の東日本大震災後に測定したものを使用している。燕沢遺跡の平面座標についてはこれまでの調査成果との整合性を保つため震災前の日本測地系を使用している。

3．遺構の略称は以下のとおりで、遺構番号は各調査別の通し番号である。

SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SE：井戸跡　SI：竪穴住居跡　SK：土坑　SX：性格不明遺構

P：ピット

4．遺物の略称は以下のとおりである。

A：縄文土器　B：弥生土器　C：土師器（非ロクロ調整）　D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器

E：須恵器　F：丸瓦　G：平瓦　H：その他の瓦　I：陶器　J：磁器　K：石器・石製品

L：木製品　N：金属製品　P：土製品

5．土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原1999）を使用した。

6．遺物実測図中の網点は黒色処理を示している。

7．遺物観察表の（　）がついた数値は図上復元した推定値、もしくは器高の残存高である。

8．本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田1980）はこれまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰（To - a）」と考えられている。降下年代は西暦915年と推定されている。

庄子貞雄・山田一郎1980「宮城県北部に分布する灰白色火山灰」について『多賀城跡 - 昭和54年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所

早田勉2000「第5章第1節　沼向遺跡、中野高柳遺跡におけるテフラ分析」『沼向遺跡　第1～3次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題―十和田aと白頭山（長白頭）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目　　次

第１章　調査計画と実績……1
　第１節　調査体制　　第２節　調査計画　　第３節　調査実績……1
第２章　宮城野区内の調査……3
　第１節　燕沢遺跡……3
　　Ⅰ　遺跡の概要……3
　　Ⅱ　第15次調査……3
　　１．調査要項　　３．基本層序　　５．まとめ
　　２．調査に至る経緯と調査方法　　４．発見遺構と出土遺物
第３章　若林区内の調査……11
　第１節　中在家南遺跡……11
　　Ⅰ　遺跡の概要……11
　　Ⅱ　第10次調査……11
　　１．調査要項　　３．基本層序　　５．まとめ
　　２．調査に至る経緯と調査方法　　４．発見遺構と出土遺物
　第２節　今泉遺跡……24
　　Ⅰ　遺跡の概要……24
　　Ⅱ　第15次調査……25
　　１．調査要項　　３．基本層序　　５．まとめ
　　２．調査に至る経緯と調査方法　　４．発見遺構と出土遺物
第４章　郡山遺跡の調査……30
第５章　総括……31
　　Ⅰ．燕沢遺跡第15次調査　　Ⅱ．中在家南遺跡第10次調査　　Ⅲ．今泉遺跡第15次調査　　Ⅳ．郡山遺跡

挿図目次

第１図　平成28・29年度調査地点位置図……2
第２図　燕沢遺跡の位置と周辺の遺跡……3
第３図　燕沢遺跡第15次調査区および周辺調査区位置図……4
第４図　燕沢遺跡第15次調査区配置図……4
第５図　SB3掘立柱建物跡出土遺物……5
第６図　燕沢遺跡第15次調査区平・断面図……6
第７図　その他の出土遺物……7
第８図　燕沢遺跡第9・15次調査区遺構配置図……8
第９図　中在家南遺跡の位置と周辺の遺跡……11
第10図　中在家南遺跡第10次調査区および周辺調査区位置図……12

第 11 図　中在家南遺跡第 10 次調査区配置図 …… 12
第 12 図　中在家南遺跡第 10 次調査区平・断面図 …… 13
第 13 図　中在家南遺跡第 10 次 SR1 河川跡出土遺物（1）…… 15
第 14 図　中在家南遺跡第 10 次 SR1 河川跡出土遺物（2）…… 16
第 15 図　中在家南遺跡第 10 次 SR1 河川跡出土遺物（3）…… 17
第 16 図　今泉遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 24
第 17 図　今泉遺跡第 15 次調査区および周辺調査区位置図 …… 24
第 18 図　今泉遺跡第 15 次調査区配置図 …… 25
第 19 図　今泉遺跡第 15 次調査区平・断面図 …… 26
第 20 図　今泉遺跡第 15 次調査区および周辺調査区の遺構 …… 27
第 21 図　郡山遺跡調査区位置図 …… 30

挿表目次

表 1　平成 28 年度　個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧 …… 1
表 2　平成 29 年度　個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧 …… 2
表 3　平成 29 年度実施郡山遺跡発掘調査一覧 …… 30

写真図版目次

写真図版 1　燕沢遺跡第 15 次調査（1）…… 9
写真図版 2　燕沢遺跡第 15 次調査（2）・出土遺物 …… 10
写真図版 3　中在家南遺跡第 10 次調査（1）…… 19
写真図版 4　中在家南遺跡第 10 次調査（2）…… 20
写真図版 5　中在家南遺跡第 10 次調査出土遺物（1）…… 21
写真図版 6　中在家南遺跡第 10 次調査出土遺物（2）…… 22
写真図版 7　中在家南遺跡第 10 次調査出土遺物（3）…… 23
写真図版 8　今泉遺跡第 15 次調査（1）…… 28
写真図版 9　今泉遺跡第 15 次調査（2）…… 29

第１章　調査計画と実績

第１節　調査体制

調査主体　　仙台市教育委員会

調査担当　　仙台市教育局生涯学習部文化財課

平成 28 年度

【文 化 財 課】　課　長　　長島栄一

【調査調整係】　係　長　　荒井　格　　主　査　　平間亮輔

主　任　　鈴木　隆

主　事　　及川謙作　　庄子裕美　　髙橋純平　　小林　航

文化財教諭　吉田真太郎　笹原　惇　　佐藤慶一　　及川　基

専門員　　佐藤　洋

【整備活用係】　係　長　　斎野裕彦

主　任　　小野寺啓次

主　事　　五十嵐　愛

文化財教諭　小山紘明　　千葉昴太　　高橋和也

専門員　　木村浩二

平成 29 年度

【文 化 財 課】　課　長　　長島栄一

【調査調整係】　係　長　　平間亮輔

主　任　　鈴木　隆

主　事　　及川謙作　　庄子裕美　　小林　航　　三浦一樹　　妹尾一樹　　柳澤　楓

文化財教諭　笹原　惇　　佐藤慶一　　及川　基　　大友　渉

専門員　　佐藤　洋　　渡部弘美

【整備活用係】　係　長　　佐藤　淳

主　任　　小野寺啓次　稲垣正志

主　事　　五十嵐　愛

文化財教諭　小山紘明　　高橋和也　　三浦昂也

第２節　調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、「個人専用住宅補助事業費」として、総額 6,830 千円（このうち補助金額 3,415 千円）の予算で 27 件の調査を計画した。

第３節　調査実績

平成 28 ～ 29 年度にかけて（平成 29 年 3 月 2 日～平成 30 年 2 月 9 日）実施された調査は表１、２のとおりで、計 35 件である。このうち本書に収録したのは平成 28 年度分 2 件、平成 29 年度分 1 件の計 3 件である。

平成 28 年度　個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧（平成 29 年 3 月 2 日～平成 29 年 3 月 31 日）　調査面積 18.0㎡

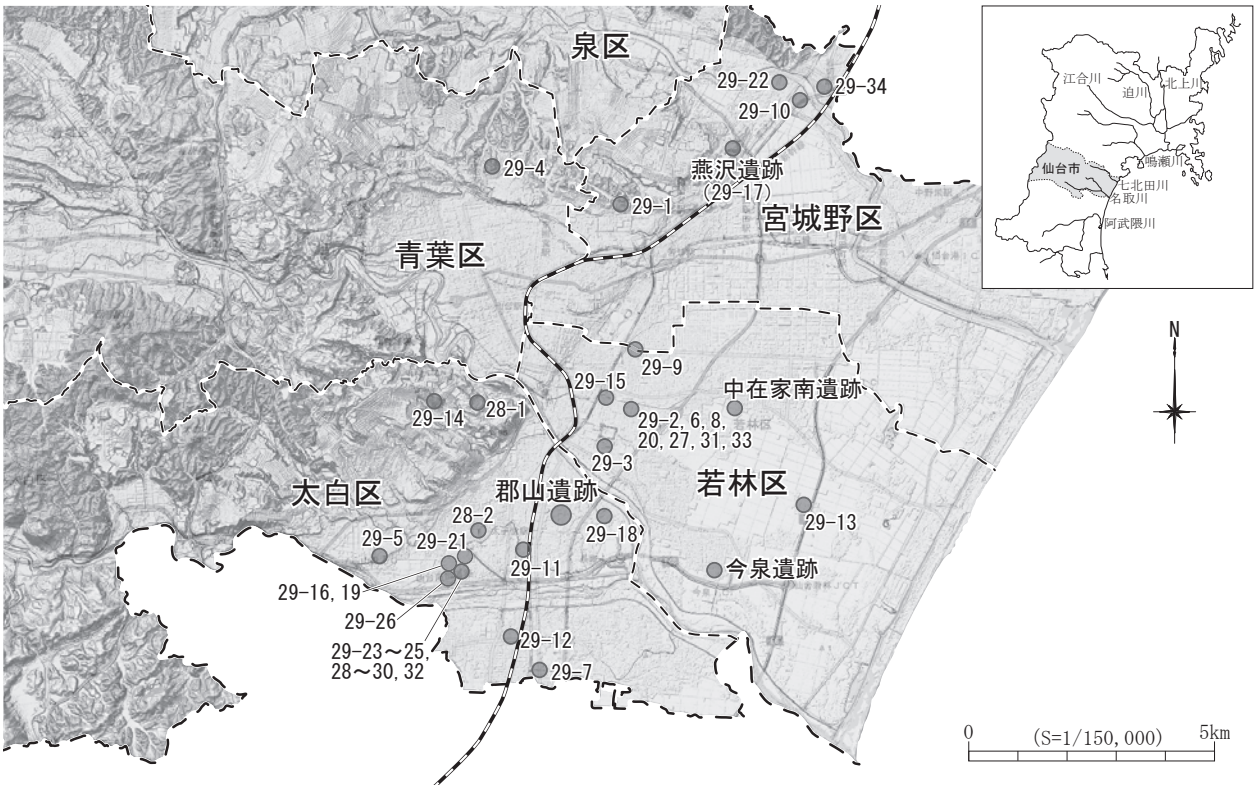
	調査No.	遺跡名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等No.	報告書
1	H28-92	萩ヶ丘Ｂ遺跡	太白区萩ヶ丘	54.6㎡	9.0㎡	3 月 22 日	遺構・遺物なし	H28-101-749	－
2	H28-93	山口遺跡	太白区富沢 4 丁目	84.0㎡	9.0㎡	3 月 21 日	ピット	H28-101-528	－

表１　平成 28 年度　個人住宅の建築に伴う発掘調査一覧

平成 29 年度　個人住宅に伴う発掘調査一覧（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 2 月 13 日）　調査面積 445.9㎡

	調査No.	遺跡名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等No.	報告書
1	H29-1	神明社窯跡	宮城野区西枡江	65.5㎡	4.0㎡	4 月 10 日	ピット 1、遺物なし	H28-101-822	－
2	H29-4	南小泉遺跡	若林区南小泉四丁目	76.0㎡	12.0㎡	4 月 13 日	遺構・遺物なし	H28-101-715	－
3	H29-5	若林城跡隣接	若林区若林三丁目	117.0㎡	19.5㎡	4 月 19 日	遺構・遺物なし	H28-103-112	－
4	H29-6	台原二丁目窯跡	青葉区台原二丁目	58.0㎡	8.0㎡	4 月 24 日	遺構・遺物なし	H28-101-820	－
5	H29-8	上野遺跡	太白区富田字上野東	53.0㎡	10.0㎡	5 月 9 日	遺構・遺物なし	H29-102-037	－
6	H29-9	南小泉遺跡	若林区南小泉二丁目	95.9㎡	16.0㎡	5 月 11 日	SX1、遺物なし	H29-102-043	－
7	H29-11	壇腰遺跡	太白区中田七丁目	33.1㎡	12.0㎡	5 月 17 日	SX1、遺物僅少	H29-102-056	－
8	H29-12	南小泉遺跡	若林区南小泉二丁目	70.3㎡	12.0㎡	5 月 22 日	ピット 16、遺物僅少	H29-102-066	－
9	H29-14	国分尼寺跡隣接	若林区宮千代一丁目	115.4㎡	12.0㎡	5 月 24 日	遺構・遺物なし	H29-103-009	－
10	H29-15	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字鴻巣	73.7㎡	20.0㎡	5 月 29 日	ピット 1、遺物なし	H29-102-096	－
11	H29-16	新田遺跡	太白区長町南二丁目	103.8㎡	16.0㎡	6 月 15 日	遺構・遺物なし	H29-102-103	－
12	H29-21	安久東遺跡	太白区西中田三丁目	65.8㎡	10.4㎡	7 月 13 日	遺構・遺物なし	H29-102-160	－
13	H29-25	藤田新田遺跡	若林区荒井字宅地	115.5㎡	11.5㎡	7 月 20 日	溝跡 1・土坑 1、陶器など	H29-102-196	－
14	H29-28	八木山緑町遺跡	太白区八木山緑町	66.2㎡	12.0㎡	8 月 7 日	遺構・遺物なし	H29-102-203	－
15	H29-30	養種園遺跡	若林区南小泉一丁目	49.7㎡	6.0㎡	8 月 10 日	遺構・遺物なし	H29-102-224	－
16	H29-33	鍛冶屋敷前遺跡	太白区富沢駅西 67 街区	68.2㎡	16.0㎡	8 月 24 日～ 25 日	土坑 1 など、遺物僅少	H29-102-252	－
17	H29-35	燕沢遺跡	宮城野区燕沢東三丁目	63.6㎡	63.0㎡	8 月 28 日～ 9 月 11 日	掘立柱建物跡など	H29-102-229	第 15 次
18	H29-36	北目城跡	太白区郡山四丁目	73.0㎡	12.0㎡	8 月 29 日	遺構・遺物なし	H29-102-234	－
19	H29-37	鍛冶屋敷前遺跡	太白区富沢駅西 67 街区	68.2㎡	16.0㎡	8 月 30 日	土坑 1、遺物僅少	H29-102-253	－
20	H29-40	南小泉遺跡	若林区遠見塚二丁目	59.9㎡	15.0㎡	9 月 13 日～ 14 日	溝跡 1、遺物僅少	H29-102-286	－
21	H29-45	川前浦遺跡隣接	太白区富沢字川前浦	127.5㎡	24.0㎡	10 月 5 日	遺構なし、遺物僅少	H29-103-044	－
22	H29-52	今市遺跡	宮城野区岩切字三所北	61.3㎡	12.0㎡	11 月 9 日	遺構なし、遺物僅少	H29-102-337	－
23	H29-53	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 60 街区	62.9㎡	12.0㎡	11 月 7 日	遺構・遺物なし	H29-102-383	－
24	H29-54	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 60 街区	67.8㎡	12.0㎡	11 月 14 日	遺構・遺物なし	H29-102-396	－
25	H29-55	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 60 街区	68.6㎡	12.0㎡	11 月 15 日	遺構・遺物なし	H29-102-397	－
26	H29-56	六本松遺跡	太白区富沢駅西 63 街区	88.5㎡	16.0㎡	11 月 20 日	ピット 1、遺物なし	H29-102-395	－
27	H29-57	南小泉遺跡	若林区古城三丁目	83.4㎡	16.0㎡	11 月 29 日	遺構・遺物なし	H29-102-402	－
28	H29-60	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 65 街区	67.5㎡	3.0㎡	12 月 5 日	遺構・遺物なし	H29-102-335	－
29	H29-61	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 65 街区	56.8㎡	6.0㎡	12 月 5 日	遺構・遺物なし	H29-102-360	－
30	H29-62	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 65 街区	58.4㎡	4.0㎡	12 月 5 日	遺構・遺物なし	H29-102-361	－
31	H29-63	南小泉遺跡	若林区遠見塚二丁目	61.0㎡	4.5㎡	12 月 4 日	遺構・遺物なし	H29-102-305	－
32	H29-64	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	太白区富沢駅西 60 街区	54.4㎡	12.0㎡	12 月 5 日～ 6 日	溝跡	H29-102-468	－
33	H29-75	南小泉遺跡	若林区遠見塚二丁目	89.0㎡	9.0㎡	1 月 31 日	遺構・遺物なし	H29-102-474	－
34	H29-81	洞ノ口遺跡	宮城野区岩切	57.1㎡	9.0㎡	2 月 13 日	遺構・遺物なし	H29-102-546	－

表２　平成 29 年度　個人住宅に伴う発掘調査一覧



第１図　平成 28・29 年度調査地点位置図（国土地理院地図を一部改変）

第２章　宮城野区内の調査

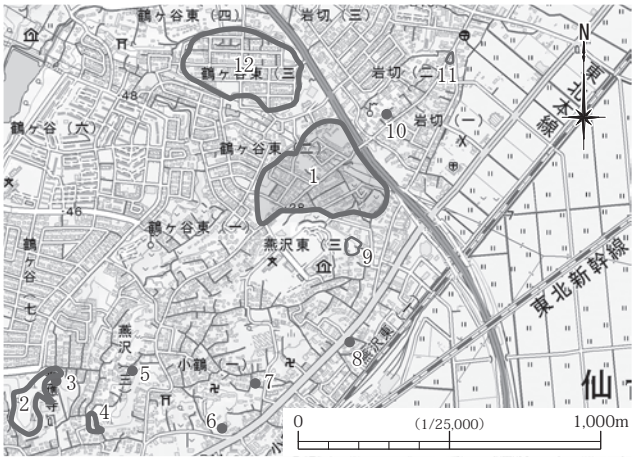
第１節　燕沢遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

燕沢遺跡は仙台市北東部のJR東仙台駅の北東約２kmに位置する。仙台市域の地形は西から東にかけて山地・丘陵地・低地に大別される。丘陵地には奥羽山脈から東に分岐する富谷・七北田丘陵があり、その東端は台原・小田原丘陵と呼ばれる。燕沢遺跡は台原・小田原丘陵の最東端の段丘上に位置し、東側の対岸に多賀城跡を望むことができる。遺跡は標高約20～30ｍの台地上に所在し、周辺の沖積平野の遺跡と比べ約15～20ｍの比高差がある。

遺跡周辺の歴史的環境については、七北田川流域では縄文時代から弥生時代にかけて不明な点が多い。縄文時代早期から前期にかけての土器が出土するほか、遺構としては燕沢遺跡で縄文時代前期前葉の竪穴住居跡が検出されている程度である。古墳時代になると燕沢遺跡で前期の竪穴住居跡が発見されているほか、七北田川沿いの鴻ノ巣遺跡では中期の竪穴住居跡や溝跡などが確認され集落域が形成されている。また千人塚古墳<10>・五郎兵衛古墳<7>・案内古墳などの古墳や善応寺横穴墓群<2>といった横穴墓も造営されている。大蓮寺窯跡では古墳時代中期の須恵器焼成窯が発見されている。奈良時代になると東側の対岸の丘陵に多賀城が造営される。台原・小田原丘陵では多賀城や陸奥国分寺に瓦などを供給するための窯群が形成され、一大窯業地として繁栄したことがわかっている。

燕沢遺跡ではこれまで14次にわたる発掘調査が実施されている。このうち第８次調査では、南北４間、東西７間以上の二面廂の掘立柱建物跡（SB2）が検出されており、寺院の「僧房」と推定されている。SB2掘立柱建物跡の北側15ｍの位置には、建物と同じ方向の溝跡（SD7）が検出されており、10世紀前半代の建物群を区画した溝と考えられている。また、第８次調査の南側の第９次・第10次調査でも掘立柱建物跡（SB3、SB5）が検出されている。SB3建物跡は出土遺物から９世紀後半から10世紀前半のものと考えられ、建物の方向の違いからSB2建物跡とSB3建物跡は建てられた時期が異なると考えられる。遺物の中には瓦が多数含まれており、多賀城創建期以前の瓦と多賀城Ⅱ期以降の瓦が確認されている。そのほか第２次調査では竪穴住居跡から『右婦人ヵ』と書かれた漆紙文書と陶硯が、第２次、第３次、第９次調査では墨書土器が出土しており、底部に『讀院□』と墨書されている須恵器坏がある。これまでの調査での遺構の検出状況と出土遺物から燕沢遺跡には瓦葺きの建物が存在し、寺院もしくは官衙などの古代の重要施設が存在していたことが考えられる。



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	燕沢遺跡	散布地・集落跡・寺院跡	丘陵	縄文～平安
2	善応寺横穴墓	横穴墓	丘陵	古墳
3	燕沢蒙古の碑	板碑	丘陵	中世
4	善応寺東横穴墓	横穴墓	丘陵	古墳
5	比丘尼塚古墳	古墳	丘陵	古墳
6	小鶴一丁目塚	塚	丘陵	近世
7	五郎兵衛古墳	古墳	丘陵	古墳
8	糠塚古墳	古墳	丘陵麓	古墳
9	吉沢遺跡	散布地	丘陵	古代
10	千人塚古墳	古墳	丘陵	古墳
11	山崎囲遺跡	散布地	丘陵麓	縄文
12	菖蒲沢遺跡	散布地	丘陵麓	縄文・古代

第２図　燕沢遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅱ　第15次調査

１．調査要項

遺　跡　名　燕沢遺跡

（宮城県遺跡登録番号01001）

第３図　燕沢遺跡第 15 次調査区および周辺調査区位置図

調 査 地 点　宮城野区燕沢東三丁目 527

調 査 期 間　平成 29 年 8 月 28 日（月）～ 9 月 11 日（月）

調査対象面積　建築面積 63.55㎡

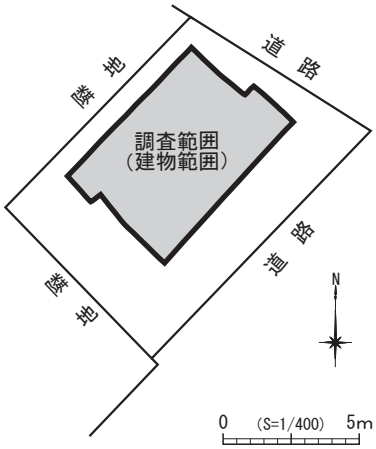
調 査 面 積　63.55㎡

調 査 原 因　個人住宅建築工事

調 査 主 体　仙台市教育委員会

調 査 担 当　仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係

担 当 職 員　主任　鈴木　隆　　主事　妹尾 一樹



第４図　燕沢遺跡
第 15 次調査区配置図

２．調査に至る経緯と調査方法

今回の調査は、平成 29 年 7 月 24 日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成 29 年 8 月 10 日付 H29 教生文第 102 － 229 号で通知）に基づき平成 29 年 8 月 28 日～ 9 月 11 日に実施した。

今回の対象地は平成 7 年度に実施された燕沢遺跡第 9 次調査の調査区に含まれており、掘立柱建物跡の存在が判明していた。申請者と保存の協議を行ったが、現状保存は困難と判断されたため、今回は建築予定地全域を対象として調査を行った。調査は土置場の関係で最初に南東部の 4m × 10m を調査し、埋戻し後、反転し北西部の 3m × 10m を調査した。重機で盛土および第 9 次調査時の埋土を除去し、その後、第 9 次調査時に検出していた遺構を調査し、記録を行った。

調査区平面図（S=1/100）ならびに遺構平面図・断面（S = 1/20）を作成し、デジタルカメラにて記録写真の撮

影を行った。埋戻しは９月 11 日に行い、調査を終了した。

３．基本層序

盛土の約 30 ～ 35cm 下に第９次調査後の旧表土が約 5cm の厚さで認められ、その下に第９次調査の埋戻し土が約 40cm の厚さで存在する。その埋戻し土の直下が第９次調査時に基本層Ⅱ層とされた遺構検出面である。現地表面から遺構検出面までの深度は約 75cm である。基本層Ⅱ層は２層に細分された。

Ⅱａ層：明黄褐色粘土を主体とし、凝灰岩小礫を少量含む。調査区の北東部で一部広がりを確認できる。

Ⅱｂ層：明黄褐色粘土を主体とし、凝灰岩円礫をきわめて多量に含む。調査区のほぼ全域で確認できる。

４．発見遺構と出土遺物

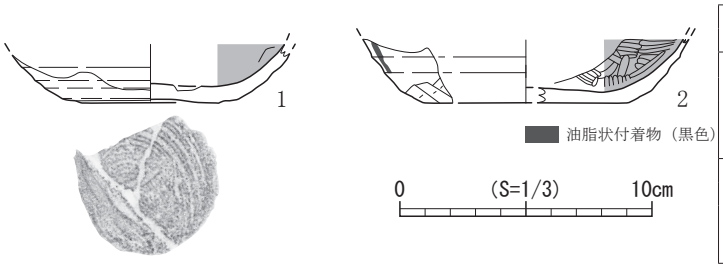
今回の調査では掘立柱建物跡１棟、溝跡２条、土坑８基、およびピットを検出した。ここでは今回、再調査を行った掘立柱建物跡（SB3）と土坑（SK11、SK15、SK28）について述べる。また、遺物は各遺構および第９次調査の埋戻し土から土師器や均整唐草文軒平瓦、磁器などが出土している。

（１）掘立柱建物跡

SB3 掘立柱建物跡

桁行４間ないし５間、梁行３間の東西棟の建物で、ほぼ方位は真北方向を向く。今回の調査では、南北に並ぶ西梁行の柱穴２基（N2W1・N3W1）と、北側柱の柱穴２基（N1W1・N1W2）、南側柱の柱穴１基（N4W1）を再検出した。南北に並ぶ４基の柱穴は９次調査時に半裁されており、そのまま埋め戻されていたが、今回の調査で完堀した。なおN2W1、N4W1とN3W1は前回の調査時に掘方底面が約５～10cm掘り足りなかったことが判明したため、断面図を修正している。またN2W1では底面で柱に沿うように礫を配置したような痕跡を確認したが、礫が認められるのは部分的である。N3W1では柱材の抜き取り痕跡があらたに確認された。SD13溝跡とSK16土坑と重複し、これらよりも新しい。

N1W1の柱痕跡内からはロクロ成形で内面黒色処理された土師器坏の底部（D-1、2・第５図1、2）が出土している。D-2の外面には油煙の痕跡と思われる油脂状物質が付着している。



図版番号	登録番号	遺構層	種別	器種	法量（cm）		
					口径	底径	器高
1	D-1	１層	ロクロ土師器	坏	-	5.5	(2.3)
	外面調整		内面調整		備考		写真図版
	ロクロナデ		ミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り 無調整		全体に黒く変色		2-2-1
2	D-2	１層	ロクロ土師器	坏	(12.9)	(8.0)	(2.5)
	外面調整		内面調整		備考		写真図版
	体部：ロクロナデ 体部下半～底部： 手持ちヘラケズリ		ヘラミガキ 黒色処理		内・外・底部に 黒色の油脂状付着		2-2-2

第５図　SB3 掘立柱建物跡出土遺物

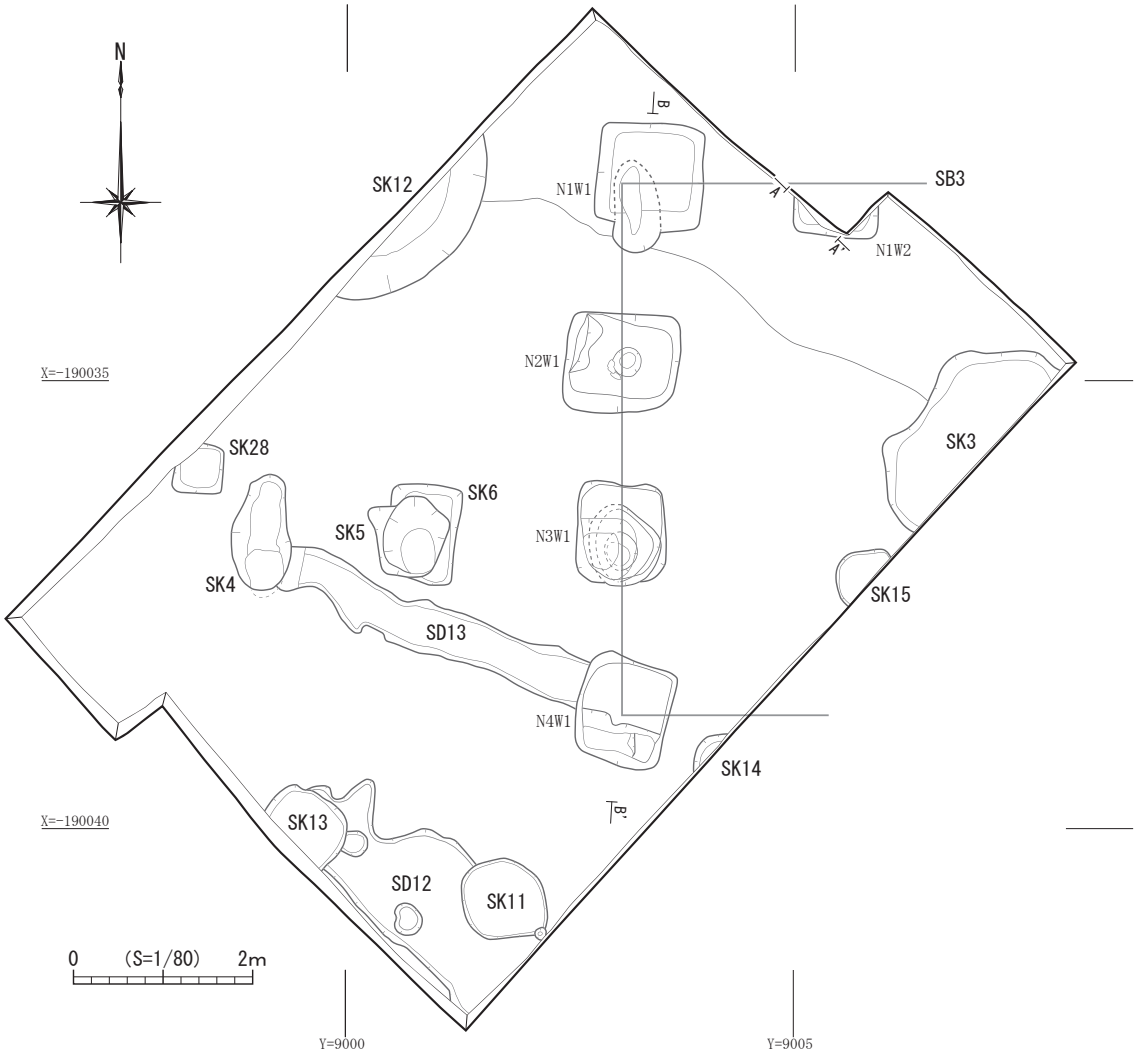
（２）土坑

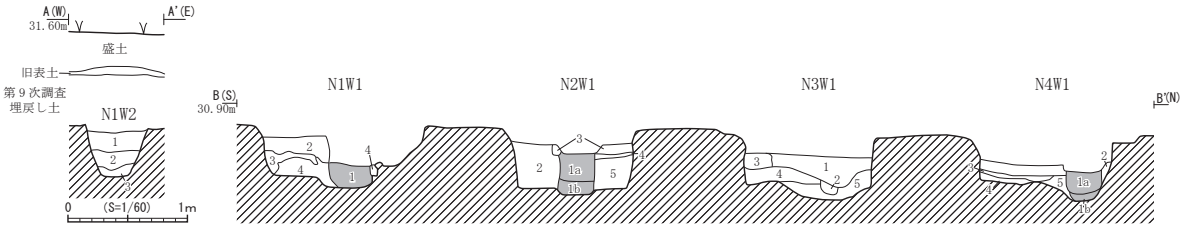
SK11 土坑

調査区南隅で検出した。直径 90cm 程度で平面形は楕円形を呈する。断面形は鍋底状であり、深さは約 5cm ～ 10cm と浅い。堆積土は単層である。SD12 溝跡と重複しこれよりも新しい。遺物は出土していない。

SK15 土坑

調査区北東部で検出した。直径約 70cmで一部が調査区外であるが平面形は円形を呈すると推定される。断面形





調査区基本層・SB3（N1W1 ～ N4W1・N1W2）土層断面

遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物	
N1W1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	柱痕跡	凝灰岩礫多量に、炭化物少量含む
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	掘方埋土	凝灰岩礫多量に含む
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト		凝灰岩礫少量含む
	4	10YR5/8 黄褐色	シルト		凝灰岩礫多量に含む
N2W1	1a	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	柱痕跡	ほぼ均質
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土		ほぼ均質
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	掘方埋土	ほぼ均質
	3	10YR6/8 明黄褐色	シルト		凝灰岩礫多量に、黄褐色シルトブロック斑状に含む
	4	10YR5/8 黄褐色	シルト		凝灰岩礫少量含む
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		ほぼ均質
	6	10YR6/6 明黄褐色	シルト		にぶい黄褐色シルトブロック斑状に含む

遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物	
N3W1	1	10YR4/4 褐色	シルト	柱抜取り	炭化粒、凝灰岩礫少量含む
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土		凝灰岩礫少量含む
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	掘方埋土	にぶい黄褐色シルトブロック斑状に含む
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト		黄褐色シルトブロック斑状に含む
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト		
N4W1	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	柱痕跡	炭化粒少量、凝灰岩礫少量含む
	1b	7.5YR5/6 明黄褐色	シルト質粘土		にぶい黄褐色シルトブロック斑状に含む
	2	10YR6/6 明黄褐色	シルト	掘方埋土	
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		凝灰岩礫少量、明黄褐色シルトブロック斑状に含む
	4	10YR6/6 明黄褐色	シルト		黄褐色シルトブロック少量含む
	5	10YR6/6 明黄褐色	シルト		
N1W2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	掘方埋土	凝灰岩礫をやや多量に含む
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト		凝灰岩粒をやや多量に含む
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト		凝灰岩礫を多量に含む

第６図　燕沢遺跡第 15 次調査区平・断面図

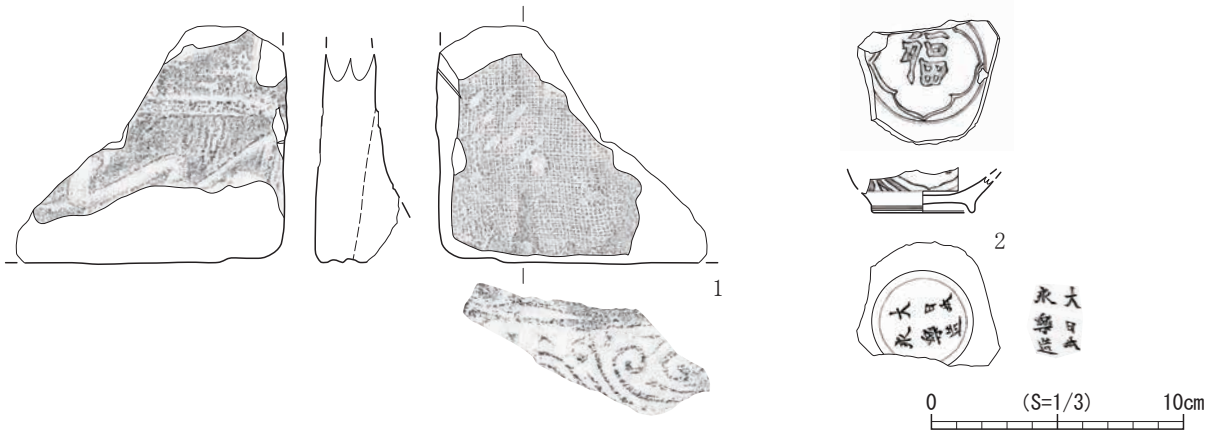
は皿形をしており、深さは約 10cm である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK28 土坑

調査区西部で検出した。直径約 50 ～ 60cm で平面形状は隅丸方形を呈する。断面形状は鍋底状を呈し、深さは約 15cmである。第９次調査の平面図では柱痕跡と思われるものが記録されているが、今回の調査では確認できなかった。遺物は出土していない。

その他の出土遺物

今回調査区内の遺構以外からは、旧埋め戻し土中などを中心に内面黒色処理がなされた土師器の坏、須恵器、軒平瓦、近代の磁器などが出土した。軒平瓦は均整唐草文で、文を囲む上側の区画線は１重であるが、ヘラケズリによって区画線の一部が不鮮明になっている。また顎部分には沈線により鋸歯文が施されている。磁器は京焼の染付小鉢である。底部内面の見込みには「福」、外面には底銘「大日本永楽造」と染付されている。底銘の書体から永楽善五郎 14 代目の永楽得全の作で、製作時期は明治 30 年代から 40 年代頃であると考えられる。



図版番号	登録番号	遺構層	種別	器種	法量（cm）			凸面調整	凹面調整	瓦当面調整	備考	写真図版
					長径	横幅	厚さ					
1	G-1	埋め戻し土	瓦	軒平瓦	(9.4)	(10.7)	(3.3)	波状文	布目痕	均整唐草文、ヘラケズリ	古代瓦	2-2-3

図版番号	登録番号	遺構層	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
					口径	底径	器高				
2	J-3	埋め戻し土	磁器	染付小鉢	-	(3.9)	(1.8)	染付「福」	染付銘「大日本永楽造」	京焼　14 代永楽得全の作　明治後半か	2-2-4

5. まとめ

今回の調査地点は燕沢遺跡の南東部に位置する。平成７年度に行われた第９次調査では、９世紀後半から 10 世紀にかけて寺院の中枢を構成する主要な建物と考えられている SB3 などが検出されていた。今回の調査では第９次調査で半裁し埋め戻されていた、SB3 の西側梁行の再調査を主に行った。その結果、部分的に柱穴の掘方底面が第９次調査時には約５～ 10cm 掘り足りなかったことと、また N3W1 においては柱の抜き取り穴を新たに確認した。しかし、掘方から遺物の出土はなく、これまでの成果の再検討をするには至らなかった。また、第９次調査時にはプラン検出のみに留めていた SK11、SK15、SK16、SK28 の精査を行ったがいずれも深さが約 10 ～ 15cmと浅く、遺物も出土しなかったことから、年代や遺構の性格などの詳細については不明である。

第８図　燕沢遺跡第９・15 次調査区遺構配置図（アミ点が第 15 次調査区）

引用・参考文献

尾野善裕　1997 「鴻池家伝来品による永楽善五郎の研究」『京都国立博物館学叢 19』

仙台市教育委員会　1982 『燕沢遺跡　―発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 39 集（第 1 次）

仙台市教育委員会　1984 『燕沢遺跡』仙台市文化財調査報告書第 62 集（第 2 次）

仙台市教育委員会　1988 『燕沢遺跡』仙台市文化財調査報告書第 116 集（第 3 次）

仙台市教育委員会　1991 『燕沢遺跡　第 4・5・6 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 154 集

仙台市教育委員会　1994 『仙台平野の遺跡群 13　―平成 5 年度発掘調査報告書―　燕沢遺跡 7 次調査など』
仙台市文化財調査報告書第 179 集

仙台市教育委員会　1995 『仙台平野の遺跡群 14　―平成 6 年度発掘調査報告書―　燕沢遺跡 8 次調査など』
仙台市文化財調査報告書第 195 集

仙台市教育委員会　1996 『仙台平野の遺跡群 15　―平成 7 年度発掘調査報告書―　燕沢遺跡 9 次調査など』
仙台市文化財調査報告書第 211 集

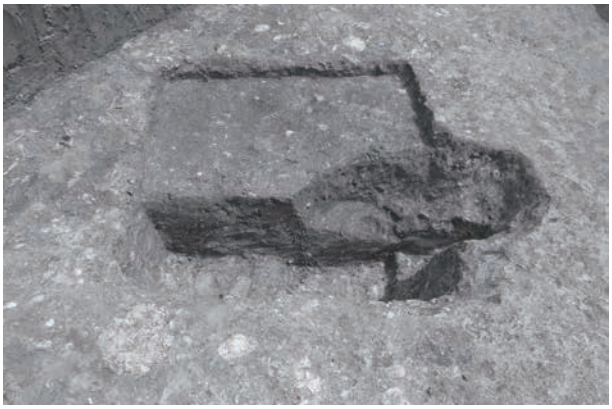
仙台市教育委員会　1997 『仙台平野の遺跡群 16　―平成 8 年度発掘調査報告書　燕沢遺跡 10 次調査など―』
仙台市文化財調査報告書第 219 集

仙台市教育委員会　1998 『仙台平野の遺跡群 17　―平成 9 年度発掘調査報告書　燕沢遺跡 11 次調査―』
仙台市文化財調査報告書第 228 集

仙台市教育委員会　2010 『仙台平野の遺跡群 20　―平成 21 年度発掘調査報告書―』
仙台市文化財調査報告書第 371 集（第 13 次）

仙台市教育委員会　2016 『燕沢遺跡第 14 次調査　―国道 4 号仙台バイパス拡幅工事に伴う発掘調査報告書―』
仙台市文化財調査報告書第 447 集

1.　調査区北西部遺構完掘状況（南西から）



2.　SB3 掘立柱建物跡 N1W1 断面（西から）

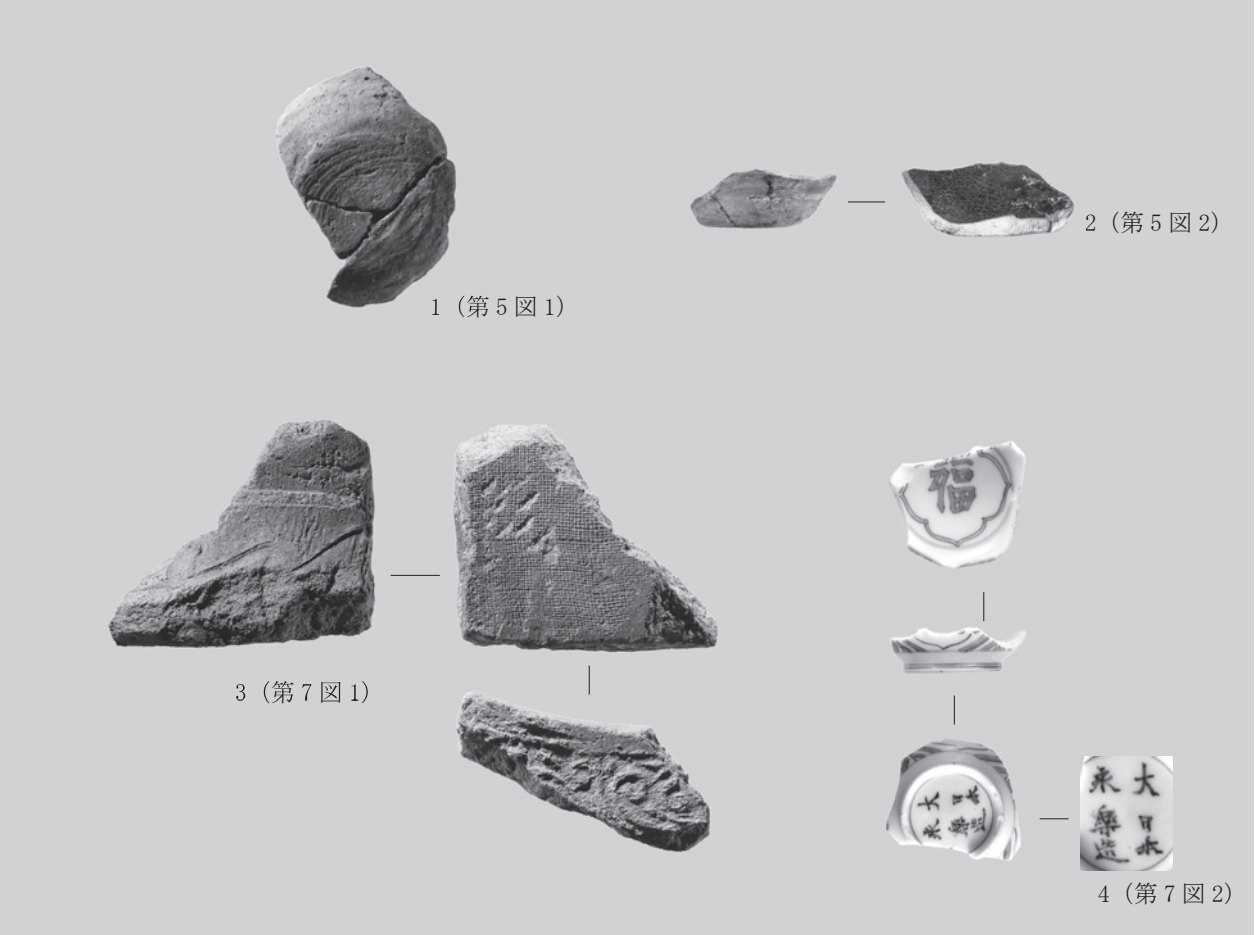
3.　SB3 掘立柱建物跡 N2W1 断面（西から）

4.　SB3 掘立柱建物跡 N3W1 断面（西から）

5.　SB3 掘立柱建物跡 N4W1 断面（西から）

写真図版 1　燕沢遺跡第 15 次調査（1）

1．調査区南東部遺構完掘状況（南から）



写真図版２　燕沢遺跡第 15 次調査（2）・出土遺物

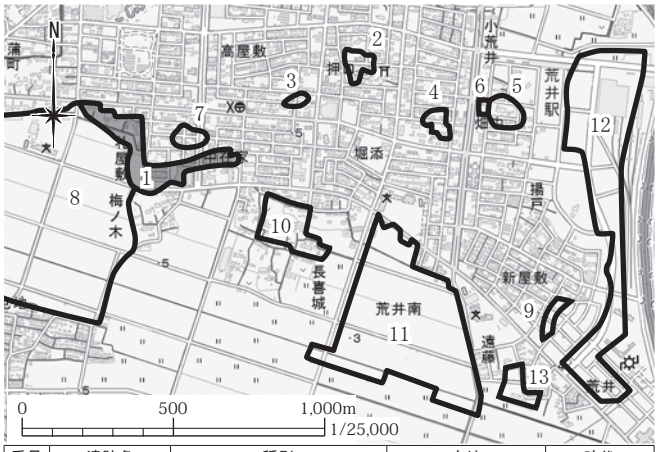
第３章　若林区内の調査

第１節　中在家南遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

中在家南遺跡は、仙台市若林区荒井字中在家、字札屋敷等に所在する。JR 仙台駅の南東約 5㎞に位置し、標高約 5m の自然堤防上に立地する縄文時代から近世の複合遺跡である。これまでの発掘調査では、弥生時代中期の土坑墓や土器棺墓、河川跡、古墳時代前期の方形周溝墓、古墳時代や平安時代の竪穴住居跡が確認されている。特に河川跡からは、弥生時代中期の土器、石器、木製品、骨角器等が多量に出土している。木製品を中心とした出土遺物は、弥生時代の生活を知るうえできわめて重要な考古資料であり、平成 15 年に仙台市有形文化財に指定されている。

中在家南遺跡の周辺の沓形遺跡 <12> と荒井南遺跡 <11> では弥生時代の水田跡と、それを覆う津波の堆積層が検出されている。また押口遺跡 <2> でも弥生時代から平安時代にかけての河川跡が、荒井広瀬遺跡 <9> では河川跡と弥生時代の地震に伴う地割れ跡などが検出されている。



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	中在家南遺跡	土器棺墓・土壙墓・方形周溝墓・河川跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～近世
2	押口遺跡	河川跡・水田跡・包含地	自然堤防・後背湿地	弥生～近世
3	高屋敷遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
4	荒井畑中遺跡	散布地	自然堤防	古墳～中世
5	荒井館跡	城館跡	自然堤防	中世
6	荒井畑中東遺跡	包含地	自然堤防	古墳
7	中在家遺跡	包含地	自然堤防	平安
8	仙台東郊条里跡	条里跡	自然堤防	平安
9	荒井広瀬遺跡	河川跡	後背湿地	弥生・古墳
10	長喜城館跡	城館跡	自然堤防	中世
11	荒井南遺跡	水田跡	後背湿地	弥生
12	沓形遺跡	生産遺跡	自然堤防	弥生～中世
13	下荒井遺跡	散布地	自然堤防	平安

第９図　中在家南遺跡の位置と周辺の遺跡

第２節　第 10 次調査

1.　調査要項

遺　跡　名　中在家南遺跡
（宮城県遺跡登録番号 01427）

調 査 地 点　若林区荒井西土地区画整理事業 29B7L、29B8-1L、27-2B10-1L

調 査 期 間　平成 29 年 1 月 12 日（木）
～平成 29 年 1 月 31 日（火）

調査対象面積　105.16㎡

調 査 面 積　31.25㎡

調 査 原 因　個人住宅建築工事

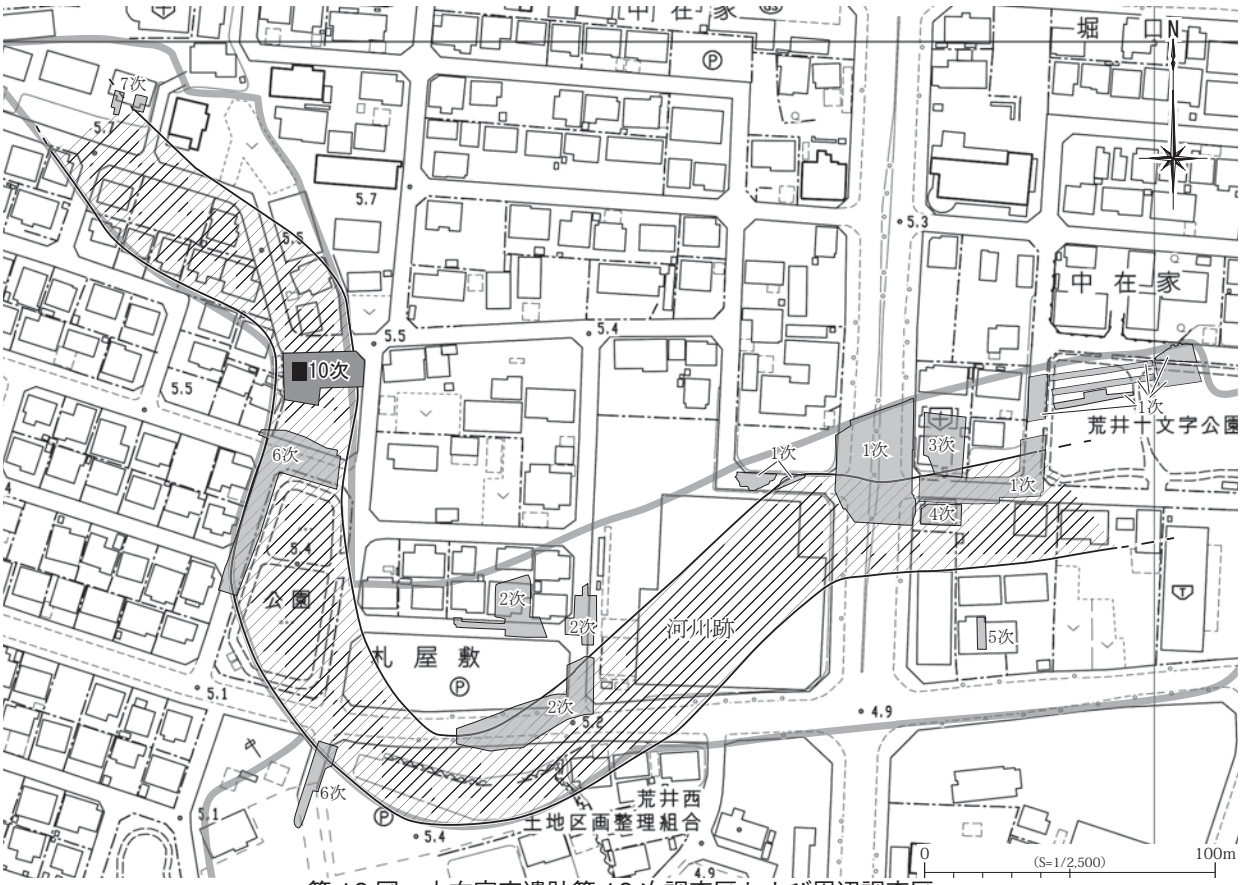
調 査 主 体　仙台市教育委員会

調 査 担 当　仙台市教育局生涯学習部文化財課
調査調整係

担 当 職 員　主事　髙橋 純平
文化財教諭　及川　基

2.　調査に至る経緯と調査方法

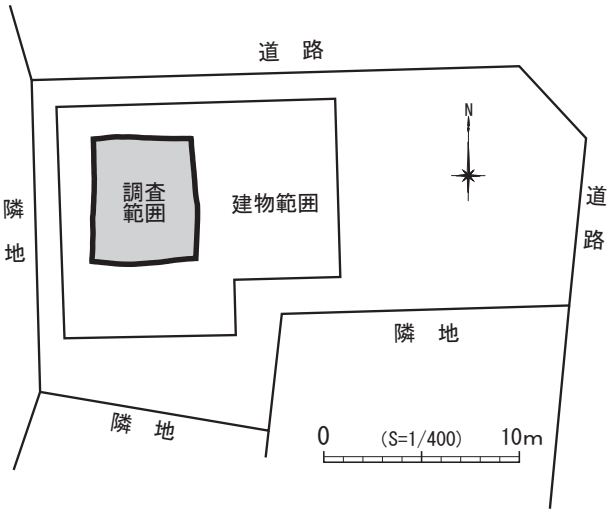
今回の調査は、平成 28 年 11 月 28 日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成 28 年 12 月 12 日付 H28 教生文第 101-579 号で通知）に基づき、平成 29 年 1 月 12 日から実施した。調査区は建物の建築範囲内に東西 5m ×南北 6.25m の規模で設定し、重機により盛土および現代の水田耕作土（Ⅰ層）を除去したところ、調査区全域で河川跡（SR1）の堆積土を検出した。その後人力で河川堆積土の掘り込みを行い、掘削深度が標高 3.83 ｍに達したところで東西 3.75m ×南北 3.55 ｍの範囲で段掘りを行い、引き続き河川堆積土を掘削した。標高 3.53 ｍまで掘削したところで西側部分が基本層Ⅱ層に達したため、調査区平面図（S=1/20）、北壁断面図（S=1/20）



第 10 図　中在家南遺跡第 10 次調査区および周辺調査区

を作成し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

調査終了後に重機により埋戻し作業を行い、1 月 31 日にすべての調査を終了した。



第 11 図　中在家南遺跡第 10 次調査区配置図

3.　基本層序

調査区内の盛土の厚さは約 75 ～ 82cm である。盛土より下位で現代の水田耕作土（Ⅰ層）と河川堆積土（1 ～ 11 層）、基本層Ⅱ層が確認された。基本層については以下のとおりである。

Ⅰ層：5YR4/1 褐灰色シルト。層下部で酸化鉄を帯状に含む。現代の水田耕作土。

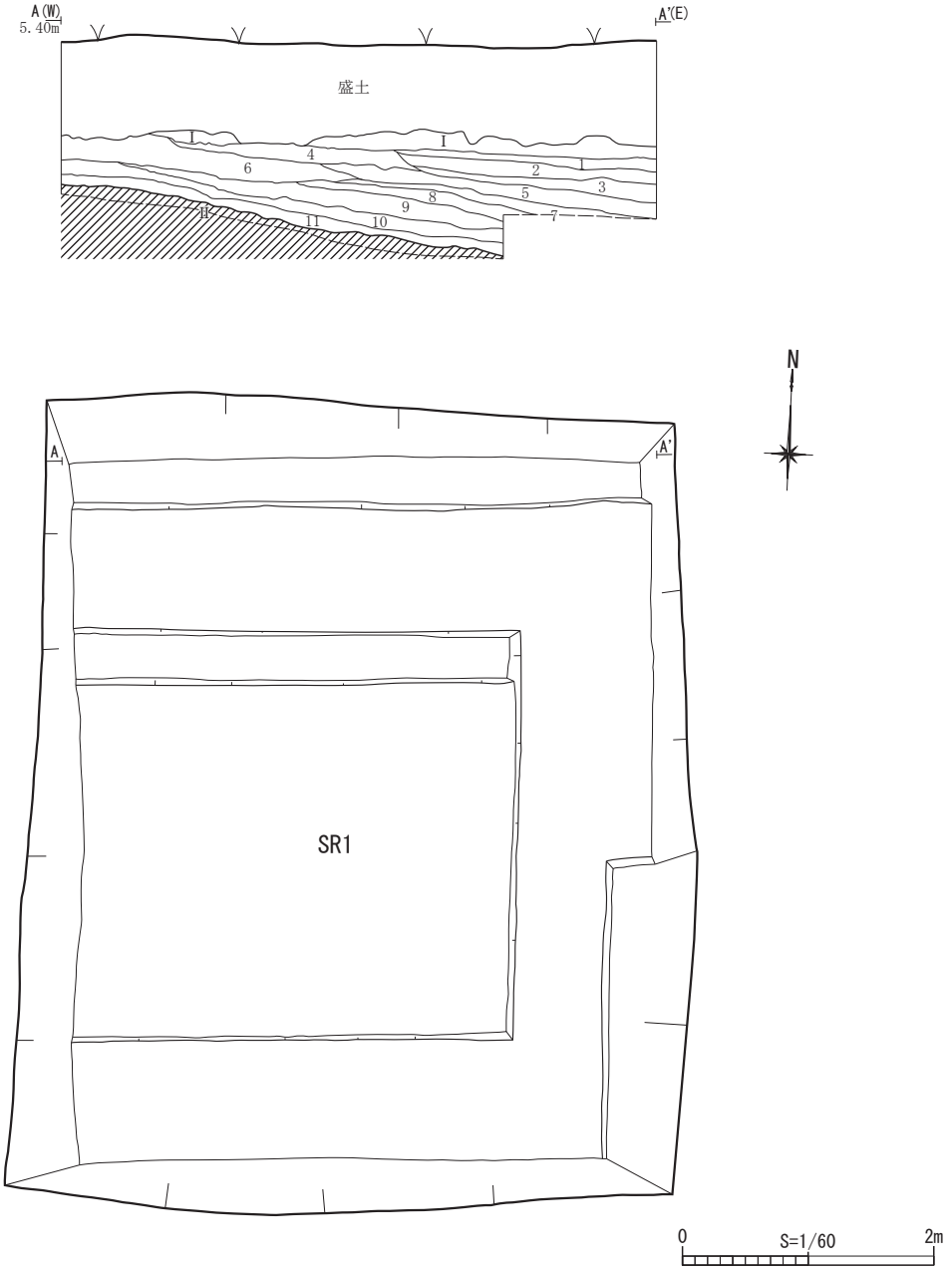
Ⅱ層：10YR6/3 にぶい黄橙色砂。酸化鉄、黒褐色砂ブロックを少し含む。

4.　発見遺構と出土遺物

今回の調査では、調査区全体に広がる河川跡（SR1）を検出した。遺物は弥生土器と石器が出土している。

SR1 河川跡

調査区全体に広がる河川跡である。今回の調査区は、過去の調査で確認された河川跡の延長部分に位置しているため、この河川跡は、過去の調査で確認された河川跡と同一のものと考えられる。北壁断面を観察したところ西か



第 12 図　中在家南遺跡第 10 次調査区平・断面図

ら東へ傾斜している状況が確認されたが、河床面は確認されなかった。深さは最浅部で標高 4.09 m、最深部で標高 3.53 mである。調査区の西側で基本層Ⅱ層が浅い深度で確認されたことから、河川跡の西岸付近であると考えられる。堆積土は 11 層に細分される。堆積土については以下のとおりである。

1 層：5YR3/1 黒褐色粘土。酸化鉄粒を含む。

2 層：10Y2/1 黒色粘土。灰白色火山灰ブロックを多量に含む。1 層ブロックを含む。酸化鉄を少量含む。

3 層：7.5Y2/1 黒色粘土。酸化鉄を少量含む。

4 層：10YR3/1 黒褐色粘土。酸化鉄を含む。黒色粘土ブロックを少量含む。

5 層：2.5Y2/1 黒色粘土。植物遺体を含む。

6 層：10YR1.7/1 赤黒色粘土。酸化鉄を含む。弥生土器が出土している。

7 層：7.5YR3/1 黒褐色粘土。黒色粘土ブロック、植物遺体を少量含む。弥生土器が出土している。

8 層：N1.5/ 黒色粘土。黒色粘土とスクモが互層状に堆積している。黒褐色粘土ブロックを含む。弥生土器が出土している。

9 層：7.5R1.7/1 赤黒色粘土質シルト。植物遺体を多く含む。酸化鉄を含む。Ⅱ層ブロックをわずかに含む。弥生土器と石器が出土している。

10層：5G3/1暗緑灰色粘土質シルト。酸化鉄、植物遺体を含む。Ⅱ層ブロックを少し含む。弥生土器が出土している。

11層：10YR6/3にぶい黄橙色砂。10層ブロックを多く含む。黒色シルトブロックを少し含む。弥生土器が出土している。

(2) 出土遺物（第 13 図～第 15 図）

遺物は、6 ～ 11 層から弥生土器と石器が出土している。弥生土器はすべて破片資料であるが、器種が判明するものが、65 点出土しており、6 層から壺 3 点、鉢 1 点、蓋 1 点、7 層からミニチュア土器（小鉢）1 点、9 層から壺 7 点、高坏 2 点、鉢 12 点、甕 15 点、深鉢 1 点、蓋 4 点、10 層から壺 4 点、鉢 7 点、甕 6 点、蓋 1 点である。壺、高坏、鉢、甕、深鉢、蓋の調整については以下のとおりである。

壺（第 13 図 4・5、第 14 図 6 ～ 10、第 15 図 8 ～ 10）

外面調整の地文は、縄文（LR）や縄文（縄文原体不明）、植物茎回転文がみられ、文様は、幾何学文や平行沈線文がみられる。その他の外面調整は、沈線やナデ、ミガキがみられる。内面調整は、ナデやミガキがみられる。

高坏（第 13 図 9・11）

外面調整の地文は、縄文（LR）がみられ、文様は、複線変形工字文がみられる。内面調整は、平行沈線文がみられる。

鉢（第 13 図 1・6・8・10・12 ～ 16、第 15 図 6）

外面調整の地文は、縄文（LR）や付加条縄文（LR+R）、植物茎回転文がみられ、文様は、複線変形工字文や重四角文、平行沈線文がみられる。その他の外面調整は、ヨコナデやハケメ、ミガキがみられる。内面調整は、沈線やミガキがみられる。

甕（第 13 図 7、第 14 図 5・12 ～ 15、第 15 図 1 ～ 5・12 ～ 14）

外面調整の地文は、縄文（LR）や付加条縄文（LR+R）、植物茎回転文がみられ、文様は、列点刺突文がみられる。その他の外面調整は、ヨコナデやミガキがみられる。内面調整は、ナデやミガキがみられる。

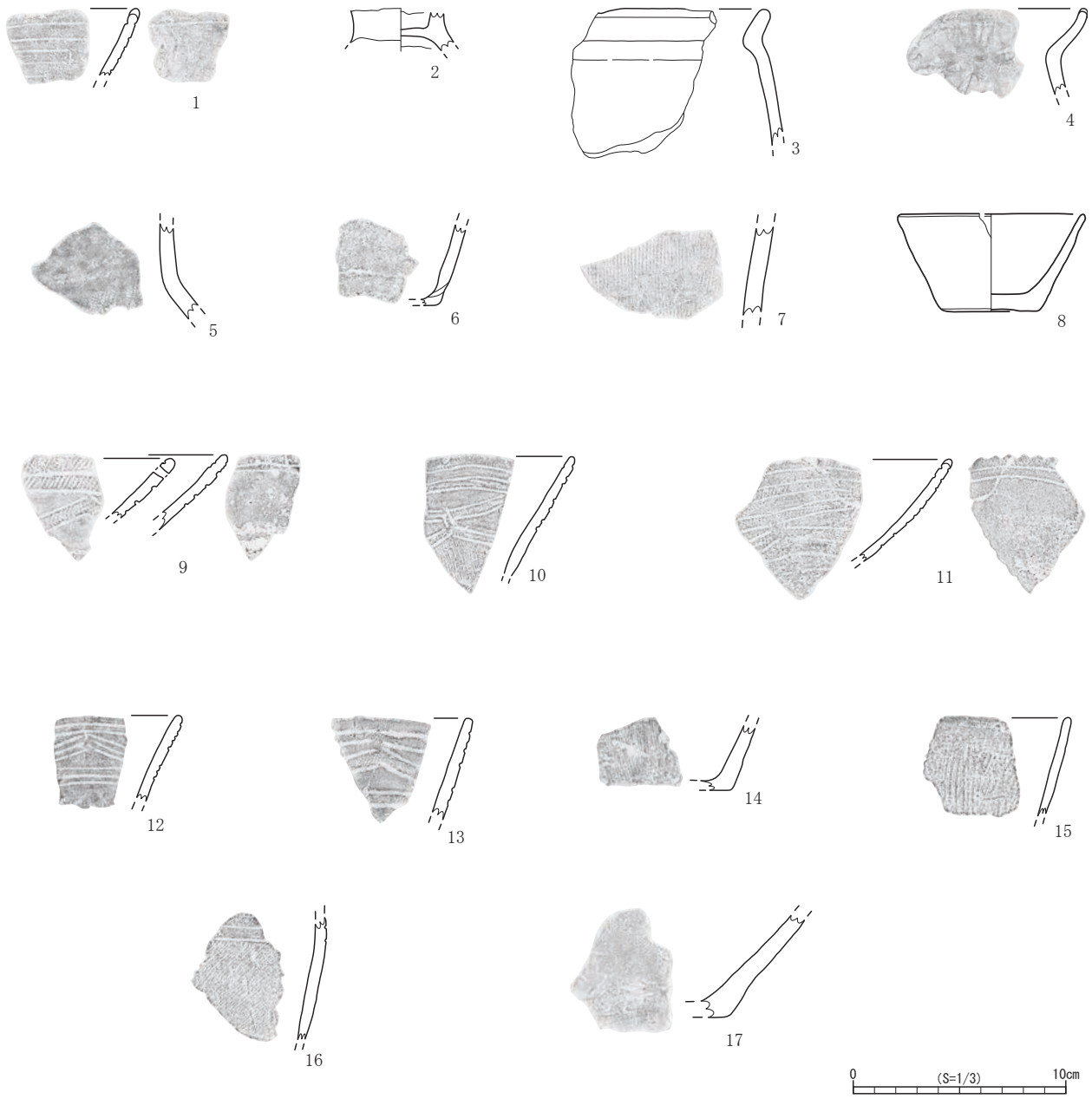
深鉢（第 14 図 11）

外面調整の文様は、平行沈線文がみられる。内面調整はミガキがみられる。

蓋（第 13 図 2、第 14 図 1 ～ 4、第 15 図 7）

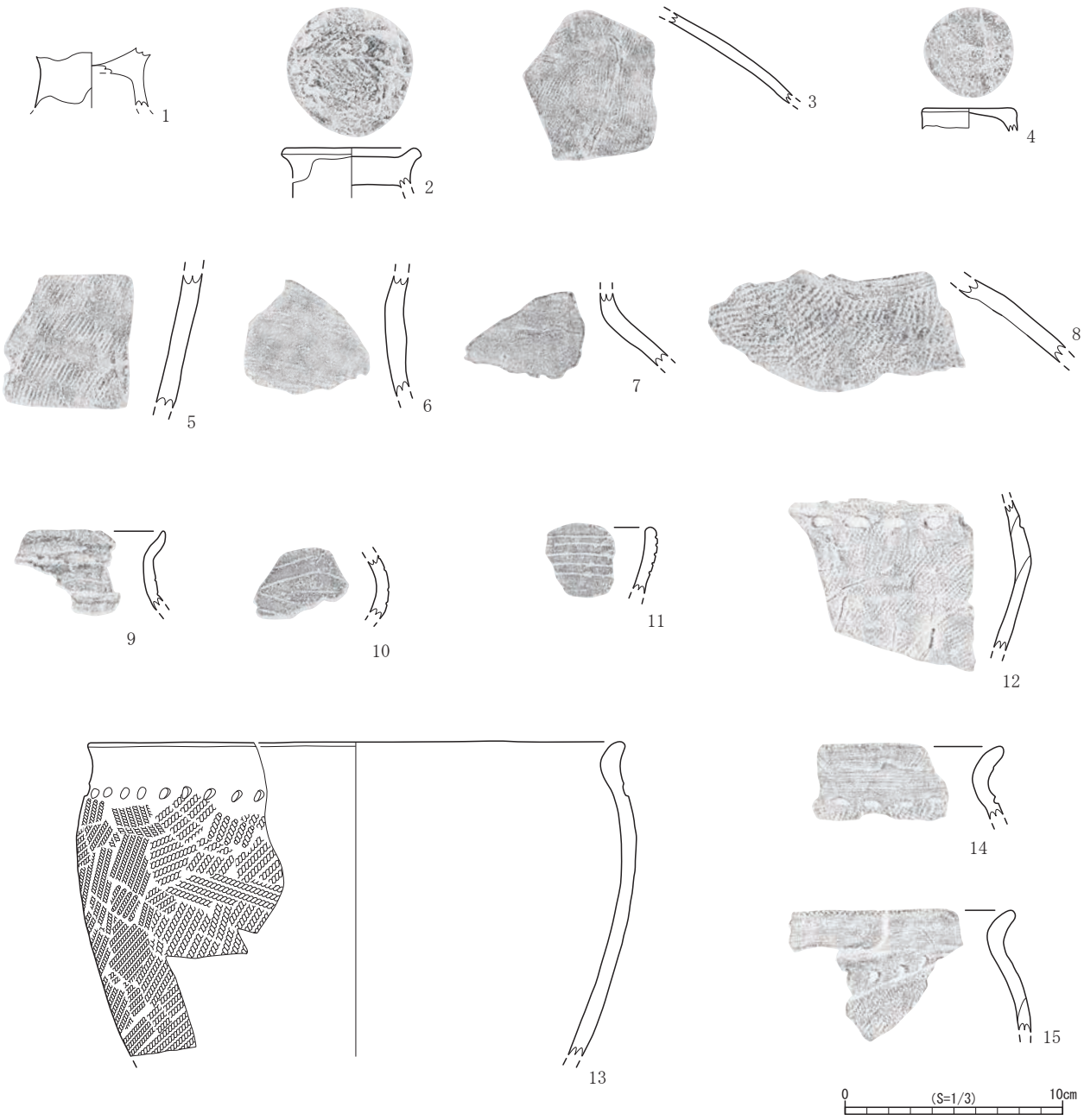
外面調整の地文は、縄文（LR）がみられる。その他の外面調整は、ミガキがみられる。内面調整は、ミガキがみられる。

出土土器の文様等の特徴から、今回の調査で出土した弥生土器は、弥生時代中期中葉の中在家南式土器と考えられる。



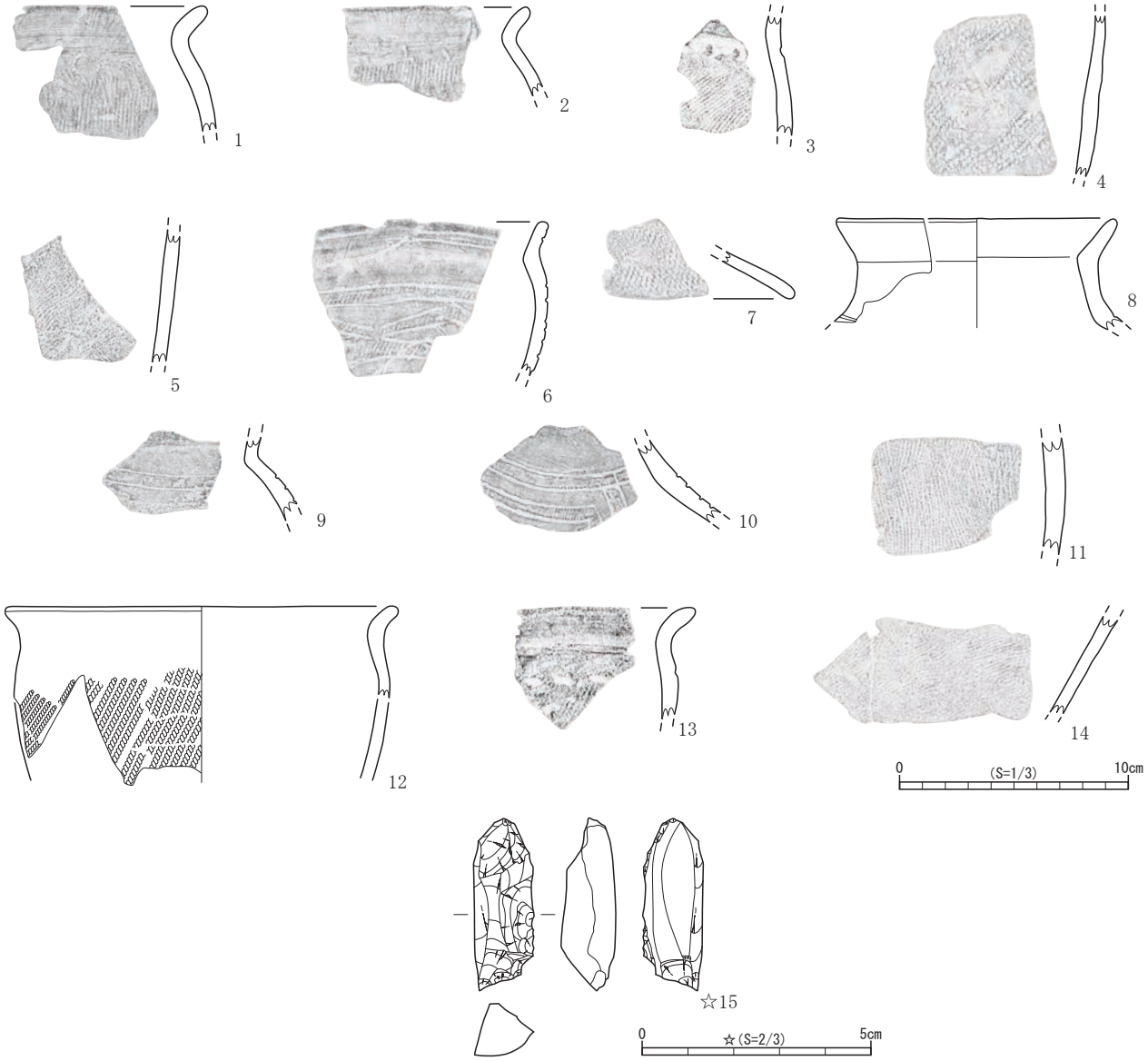
図版番号	登録番号	遺構層	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
					口径	底径	器高				
1	B-1	6 層	弥生土器	鉢	—	—	(3.1)	重四角門　地文は植物茎回転文	沈線１条	口縁部片	5-1
2	B-2	6 層	弥生土器	蓋	(4.3)	—	(1.5)	ミガキ	ミガキ	胎土に砂粒含む	5-2
3	B-3	6 層	弥生土器	壺	—	—	(6.3)	口縁部ヨコナデ？　無文	ミガキ	口縁部～頸部　骨針（少）	5-3
4	B-4	6 層	弥生土器	壺	—	—	(4.0)	ミガキ　口唇部に刻目	ミガキ	口縁部～頸部　骨針（少）	5-4
5	B-5	6 層	弥生土器	壺	—	—	(4.6)	ミガキ　縄文	ミガキ	頸部～体部上半　胎土に径 5㎜程の礫を含む	5-5
6	B-6	7 層	弥生土器	鉢	—	—	(3.8)	ミガキ（無文）	ミガキ	体部～底部	5-6
7	B-7	8 層	弥生土器	甕	—	—	(4.2)	擬縄文（植物茎回転文）	ミガキ	体部　胎土に海綿骨針を少量含む	5-7
8	B-8	9 層	弥生土器	鉢	8.8	4.6	4.6	ミガキ（縦方向）　底部外面に木葉痕	ミガキ		5-8
9	B-9	9 層	弥生土器	高坏 or 蓋	—	—	(3.5)	複線変形工字文（沈線→ LR 縄文→ミガキ→沈線）	平行沈線文（LR 縄文→ミガキ→沈線）	坏部（口縁部～体部）　胎土に砂粒を含む　貫通孔１孔	5-9
10	B-10	9 層	弥生土器	鉢	—	—	(5.6)	複線変形工字文（沈線→植物茎回転文→ミガキ）	横位沈線文→ミガキ	口縁部～体部	5-10
11	B-11	9 層	弥生土器	高坏	—	—	(4.8)	口唇刻目　複線変形工字文（沈線→ LR 縄文→ミガキ→沈線）	沈線→ LR 縄文→ミガキ→沈線	口縁部～体部 内・外面とも器面に一部剥落あり	5-11
12	B-12	9 層	弥生土器	鉢	—	—	(4.0)	複線変形工字文（沈線→ミガキ）	ミガキ	口縁部～体部	5-12
13	B-13	9 層	弥生土器	鉢	—	—	(4.8)	複線変形工字文（沈線→ LR 縄文→ミガキ）	ミガキ	口縁部～体部 胎土に 3㎜程の礫を含む	5-13
14	B-15	9 層	弥生土器	鉢	—	—	(3.0)	擬縄文（植物茎回転文）	ミガキ	体部～底部	5-14
15	B-16	9 層	弥生土器	鉢	—	—	(4.6)	口縁部ヨコナデ　体部ハケメ	口縁部ヨコナデ　体部ミガキ	口縁部～体部	5-15
16	B-20	9 層	弥生土器	鉢	—	—	(5.8)	横位平行沈線→ LR+R 付加条縄文→ミガキ→沈線	ミガキ	体部	5-16
17	B-22	9 層	弥生土器	甕	—	—	(4.8)	擬縄文（植物茎回転文）　ミガキ	ミガキ	体部～底部	5-17

第 13 図　中在家南遺跡第 10 次 SR1 河川跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	遺構層	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
					口径	底径	器高				
1	B-25	9 層	弥生土器	蓋	—	—	(2.8)	ミガキ	ミガキ	海綿骨針含む	5-18
2	B-26	9 層	弥生土器	蓋	—	—	(2.3)	ミガキ　つまみ部外面に木葉痕	ミガキ	胎土に砂粒含む つまみ部径 6.4cm（推定）	5-19
3	B-27	9 層	弥生土器	蓋	—	—		LR 縄文	ミガキ（スス付着）	体部	5-20
4	B-28	10 層	弥生土器	蓋	4.4	—	(1.0)	ミガキ　つまみ部外面に木葉痕	ミガキ	胎土に砂粒含む	5-21
5	B-29	9 層	弥生土器	甕	—	—	(6.1)	擬縄文（植物茎回転文）	ミガキ	体部	5-22
6	B-31	9 層	弥生土器	壺	—	—	(5.5)	ミガキ	ミガキ	頸部	5-23
7	B-33	9 層	弥生土器	壺	—	—	(3.4)	ミガキ	ミガキ	頸部～体部	5-24
8	B-34	9 層	弥生土器	壺	—	—	(3.8)	LR 縄文→ナデ	ミガキ	体部	5-25
9	B-35	9 層	弥生土器	壺	—	—	(3.6)	ミガキ→沈線	ミガキ	口縁部～体部	5-26
10	B-37	9 層	弥生土器	壺	—	—	(2.9)	幾何学文（沈線→ LR 縄文→ミガキ→沈線）	ナデ	胎土に砂粒含む	5-27
11	B-41	9 層	弥生土器	深鉢	—	—	(3.1)	平行沈線	ミガキ	口縁部	5-28
12	B-46	9 層	弥生土器	甕	—	—	(6.9)	口縁下部ヨコナデ　体部上半 LR 縄文→列点刺突文	ミガキ	砂粒少量含む　口縁下部～体部上半	6-2
13	B-45	9 層	弥生土器	甕	24.8	—	(14.5)	口縁部ヨコナデ　体部 LR 縄文→列点刺突文	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-1
14	B-47	9 層	弥生土器	甕	—	—	(3.4)	口縁部ヨコナデ　体部列点刺突文→ LR 縄文　口唇→ LR 縄文	ミガキ	口縁部～体部	6-3
15	B-48	9 層	弥生土器	甕	—	—	(5.6)	口縁部ヨコナデ　体部 LR 縄文→列点刺突文　口唇部 LR 縄文	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-4

第 14 図　中在家南遺跡第 10 次 SR1 河川跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	遺構層	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
					口径	底径	器高				
1	B-50	9 層	弥生土器	甕	—	—	(5.5)	口縁部ヨコナデ　体部擬縄文（植物茎回転文）	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-5
2	B-51	9 層	弥生土器	甕	—	—	(4.0)	口縁部ヨコナデ　体部擬縄文（植物茎回転文）	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-6
3	B-52	9 層	弥生土器	甕	—	—	(5.2)	口縁部ミガキ　体部 LR 縄文→列点刺突文	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-7
4	B-53	9 層	弥生土器	甕	—	—	(7.0)	LR 縄文	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-8
5	B-54	9 層	弥生土器	甕？	—	—	(5.8)	LR 縄文	ミガキ	胎土に砂粒含む	6-9
6	B-56	10 層	弥生土器	鉢	—	—	(6.7)	口縁部平行沈線文（沈線→ミガキ）体部複線変形工字文（沈線→ LR 縄文→ミガキ）	ミガキ	砂粒少ない	6-10
7	B-63	10 層	弥生土器	蓋	—	—	(2.2)	LR 縄文	ミガキ（スス付着）	砂粒を含む	6-11
8	B-64	10 層	弥生土器	壺	12.2		(4.5)	沈線→ミガキ	ミガキ	胎土に砂粒　海綿骨針を含む	6-12
9	B-65	10 層	弥生土器	壺	—	—	(3.6)	平行沈線文（ミガキ→同時施文平行沈線）	ミガキ	海綿骨針を含む　口縁下部～体部上半	6-13
10	B-67	10 層	弥生土器	壺	—	—	(3.7)	幾何学文〔沈線→擬縄文（植物回茎転文）→ミガキ→沈線〕	ミガキ	海綿骨針を含む　砂粒含む　頸部～体部	6-14
11	B-68	10 層	弥生土器	甕か壺	—	—	(5.1)	LR 縄文	ミガキ	胎土に砂粒を含む	6-15
12	B-69	10 層	弥生土器	甕	17.2	—	(7.8)	口縁部ヨコナデ　体部 LR+R 付加条縄文	ミガキ	胎土に砂粒を含む	6-16
13	B-71	10 層	弥生土器	甕	—	—	(4.9)	口縁部ヨコナデ　体部 LR 縄文→列点刺突文　口唇部 LR 縄文	ミガキ	胎土に砂粒を含む	6-17
14	B-74	10 層	弥生土器	甕	—	—	(4.2)	LR 縄文	ナデ→ミガキ	海綿骨針を含む　砂粒含む　体部	6-18

図版番号	登録番号	遺構層	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	備考	写真図版
				全長	幅	厚さ				
15	K-1	9 層	楔形石器	3.3	0.8	1.2	7.6	珪質頁岩	№8　両極剥離痕あり	7-1
－	K-2	9 層	二次加工のある剥片					頁岩？	№9　写真掲載のみ	7-2
－	K-3	9 層	フレーク						№14　7 点　珪化凝灰岩　玉髄　流紋岩　写真掲載のみ	7-3

第 15 図　中在家南遺跡第 10 次 SR1 河川跡出土遺物（3）

石器は、9 層から楔形石器 1 点、二次加工痕のある剥片 1 点、剥片 7 点が出土している。

5.　まとめ

今回の調査では、調査区全体で河川跡（SR1）が確認された。調査区が過去の調査で確認された河川跡の延長部分に位置していることから（第 10 図)、この河川跡は、過去の調査で確認された河川跡と同一のものと考えられる。調査区全体が河川堆積土に覆われているため、西岸は確認されなかったが、浅い深度で基本層Ⅱ層が確認され、西から東へ傾斜しながら堆積している状況が確認されたことから、河川跡の西岸付近であると考えられる。

遺物は、弥生土器と石器が出土している。弥生土器は、その特徴から弥生時代中期中葉の中在家南式の土器と考えられる。

引用・参考文献

仙台市教育委員会　1996　『中在家南遺跡他　仙台市荒井土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 213 集（第 1 次）

仙台市教育委員会　1997　『高屋敷遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第 223 集（第 2 次）

仙台市教育委員会　2000　『高田 B 遺跡』仙台市文化財調査報告書第 242 集

仙台市教育委員会　2002　『中在家南遺跡（第 3・4 次）　押口遺跡（第 3 次)』仙台市文化財調査報告書第 255 集

仙台市教育委員会　2012　『仙台平野の遺跡群 22　平成 23 年度個人住宅他国庫補助事業に伴う発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 404 集（第 5 次）

仙台市教育委員会　2015　『中在家南遺跡第 6 次調査ほか　―仙台市荒井西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 434 集

仙台市教育委員会　2016　『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ　―平成 24 ～ 26 年度震災復興民間発掘調査助成事業に伴う発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 448 集（第 7 次）

1. 調査区全景 SR1 河川跡検出状況（南西から）

2. SR1 河川跡完掘状況（南西から）

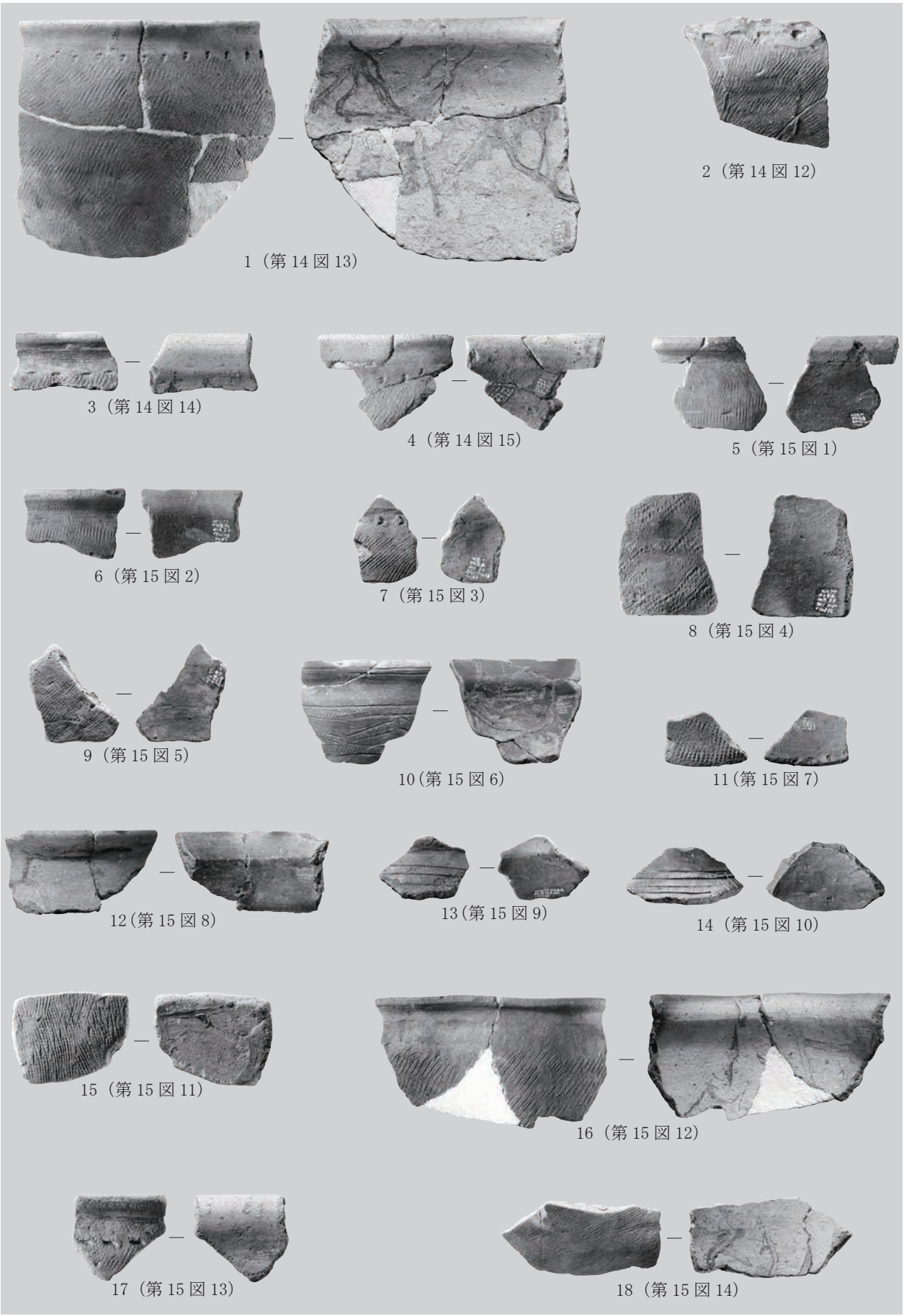
写真図版３　中在家南遺跡第 10 次調査（1）

1. 調査区全景 SR1 河川跡完掘状況（西から）

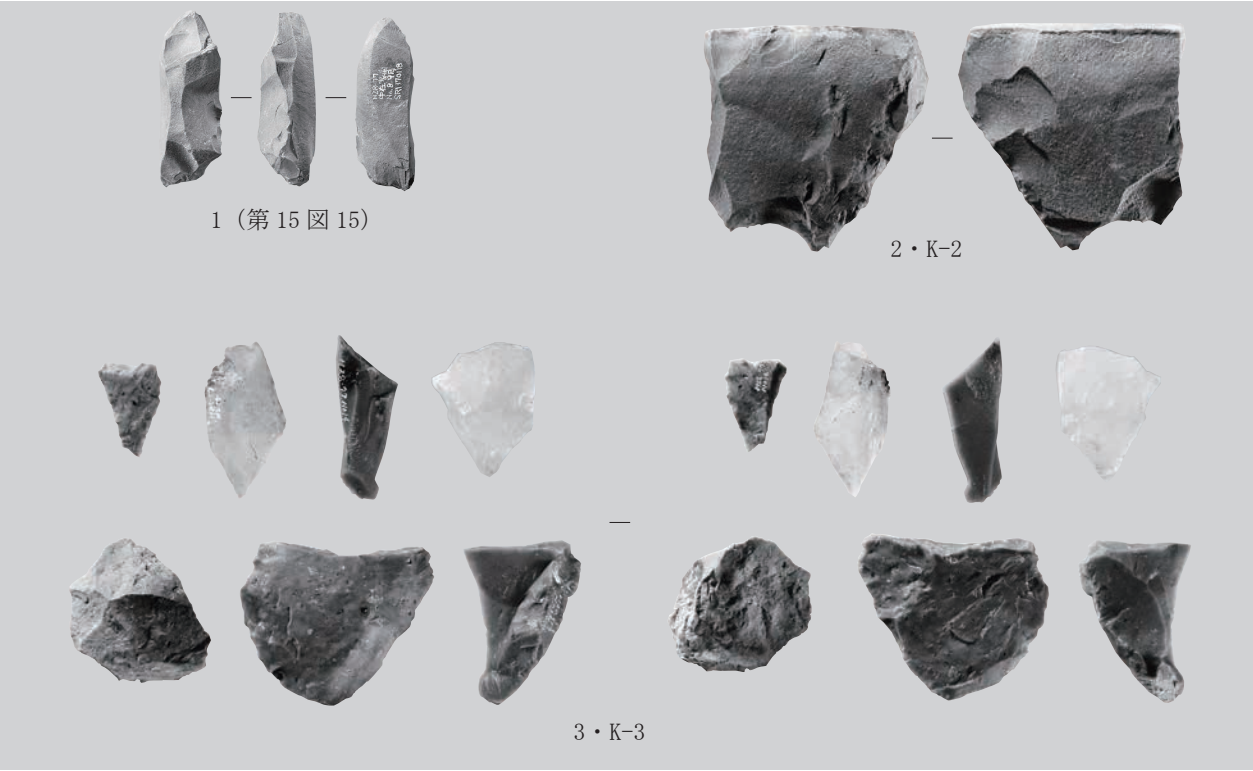
2. 調査区北壁土層断面（南から）

写真図版 4　中在家南遺跡第 10 次調査（2）

写真図版５　中在家南遺跡第 10 次調査出土遺物（1）



写真図版 6　中在家南遺跡第 10 次調査出土遺物（2）

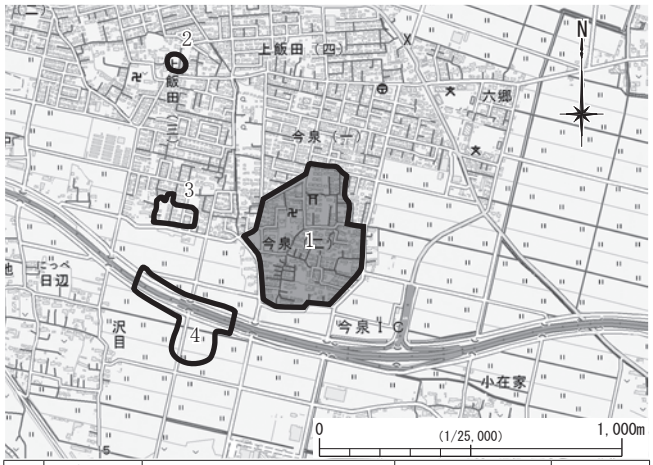


写真図版７　中在家南遺跡第 10 次調査出土遺物（3）

第２節　今泉遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

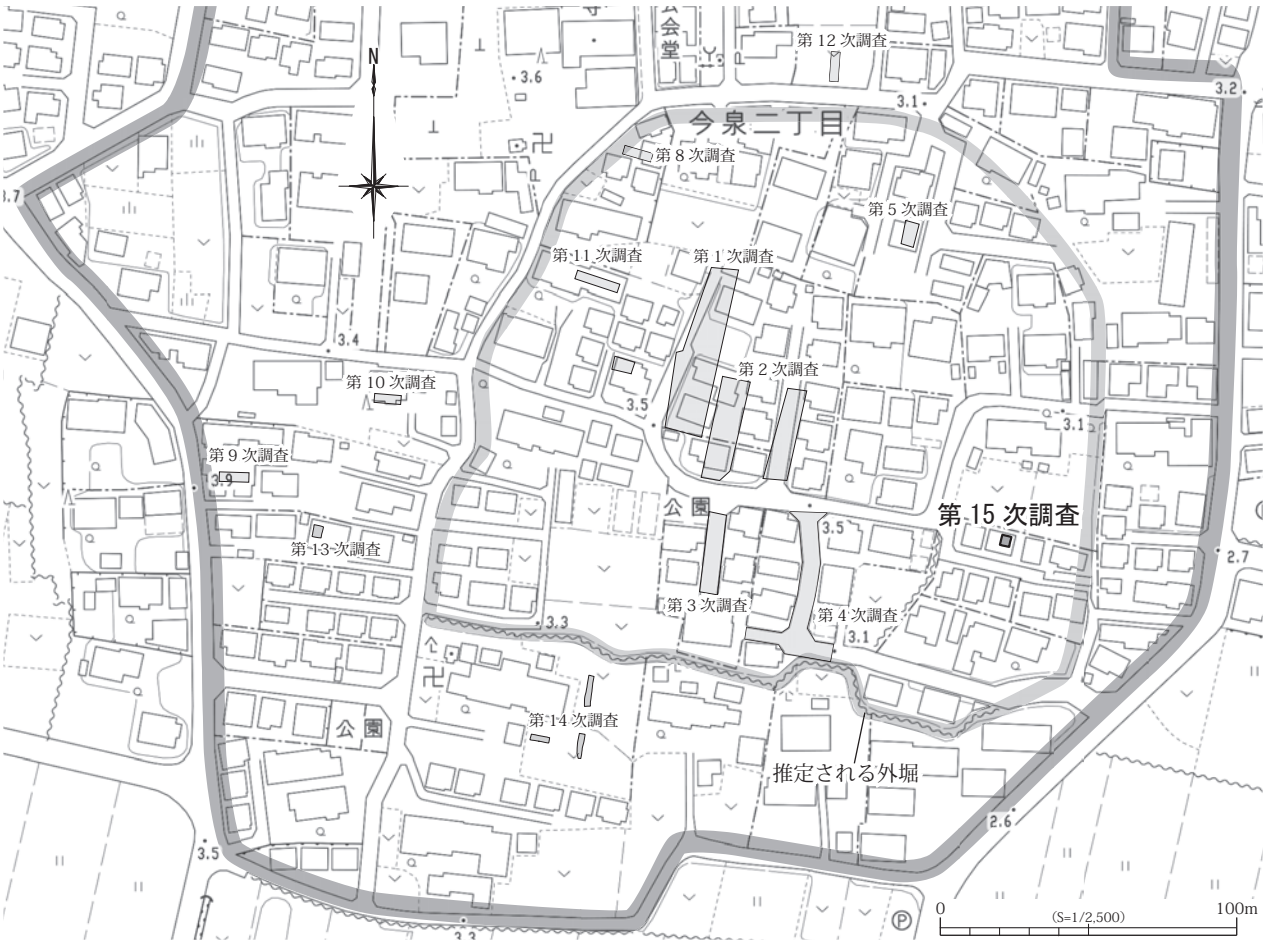
今泉遺跡は、JR 仙台駅の南東約 6.5㎞、仙台南部道路今泉インターの北西約 500 ｍに位置し、標高約２～３ｍの自然堤防上に立地している。この遺跡は、文献などにより須田玄蕃（すだげんば）が居住した中世の城館「今泉城」として古くから知られていた（『仙台領古城書立之覚』）が、仙台市教育委員会による調査で、縄文時代後期から近世にかけての時代幅をもつことが明らかにされている。



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	今泉遺跡	集落跡・城館跡・包含地	自然堤防	縄文～近世
2	高田Ｂ遺跡	集落跡・建物跡・河川跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～近世
3	高田Ａ遺跡	散布地	自然堤防	古代
4	上屋敷遺跡	散布地	自然堤防	古墳～古代

第 16 図　今泉遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の主体は、中世の城館である今泉城に関わる遺構群である。城館の構造は不明確であるが、外堀の範囲が想定されており、想定範囲付近から実際に複数の溝跡が発見されている。その内側には、掘立柱建物跡や井戸跡、溝跡などの遺構が数多く発見されており、12 世紀代に屋敷が造られ、南北朝時代に城館として改変・整備され、17 世紀前半頃まで使われていたと推定されている。

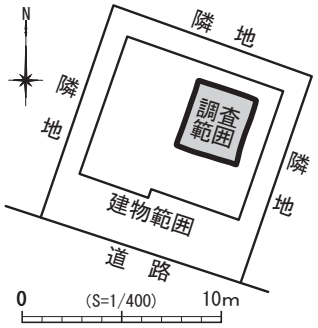


第 17 図　今泉遺跡第 15 次調査区および周辺調査区位置図

Ⅱ　第 15 次調査

１．調査要項

遺　跡　名　今泉遺跡
（宮城県遺跡登録番号 01235）
調 査 地 点　仙台市若林区今泉２丁目 103-7
調 査 期 間　平成 29 年３月１日（水）
調査対象面積　建築面積 57.18㎡
調 査 面 積　9.0㎡
調 査 原 因　個人住宅建築工事
調 査 主 体　仙台市教育委員会
調 査 担 当　仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担 当 職 員　主事　小林 航　　文化財教諭　佐藤 慶一



第 18 図　今泉遺跡
第 15 次調査区配置図

２．調査に至る経緯と調査方法

今回の調査は、平成 29 年２月 10 日付で、申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成 29 年２月 20 日付 H28 教生文第 101 － 743 号で回答）に基づき、平成 29 年３月１日に実施した。

建物建築範囲内に東西約 3.0 m×南北約 3.0m の調査区を設定し、重機により盛土と撹乱除去を行い、GL-1.0m の深度まで掘削を行ったところで溝跡の上端が検出された。土層断面を観察したところ調査区のほぼ全体が遺構の範囲内であることが判明した。遺構の掘削は安全面を考慮し、GL-1.35 m までにとどめている。

調査はデジタルカメラにて写真記録を行い、調査区平面図（1/40）、調査区南壁断面図（1/20）を作成した。記録作業後、重機により埋戻しを行い、当日中に調査を終了した。

３．基本層序

今回の調査では、基本層を２層確認した。現地表面から遺構検出面までの深さは約 45 ～ 60cm である。

Ⅰ層：暗褐色（10YR3/3）を呈するシルトで、しまりが強く、ほぼ均質である。

Ⅱ層：黒色（10YR2/1）を呈する粘土質シルトで、しまりが強く、ほぼ均質である。

４．発見遺構と出土遺物

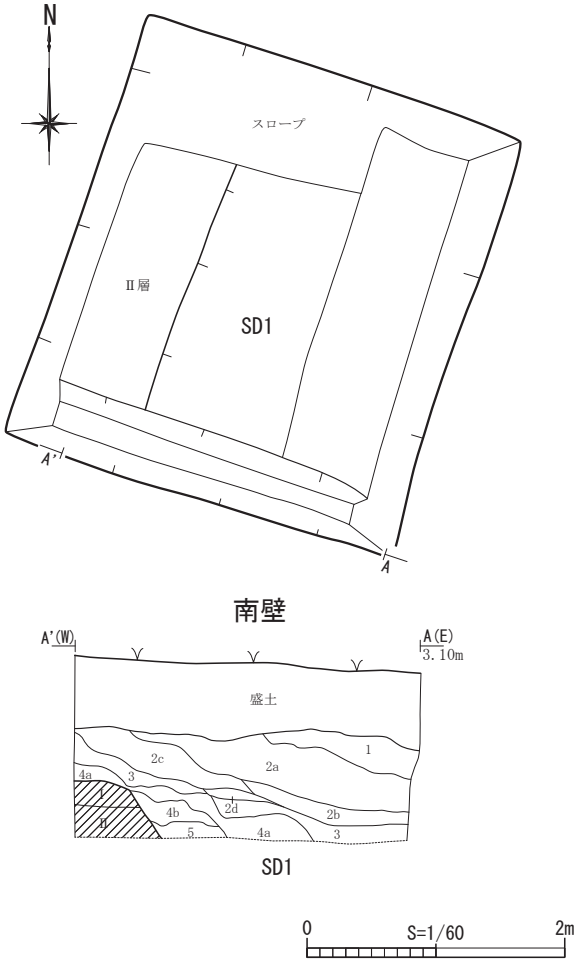
今回の調査では、溝跡１条を確認した。遺物は SD1 溝跡の堆積土中から土師器片が数点出土した。

SD1 溝跡

南北方向の溝跡である。検出した規模は全長約 2.0 m、幅約 3.0m で調査区外にさらに延びる。遺構検出面から約 80cm までの深さまで掘削を行ったが、安全面を考慮しその深度までの掘削にとどめた。堆積土は大別５層、細別９層に分層される。遺物は土師器片が数点、２層から出土しているが、出土状況などから、遺構の時期を直接的に示すものとは考えにくい。

５．まとめ

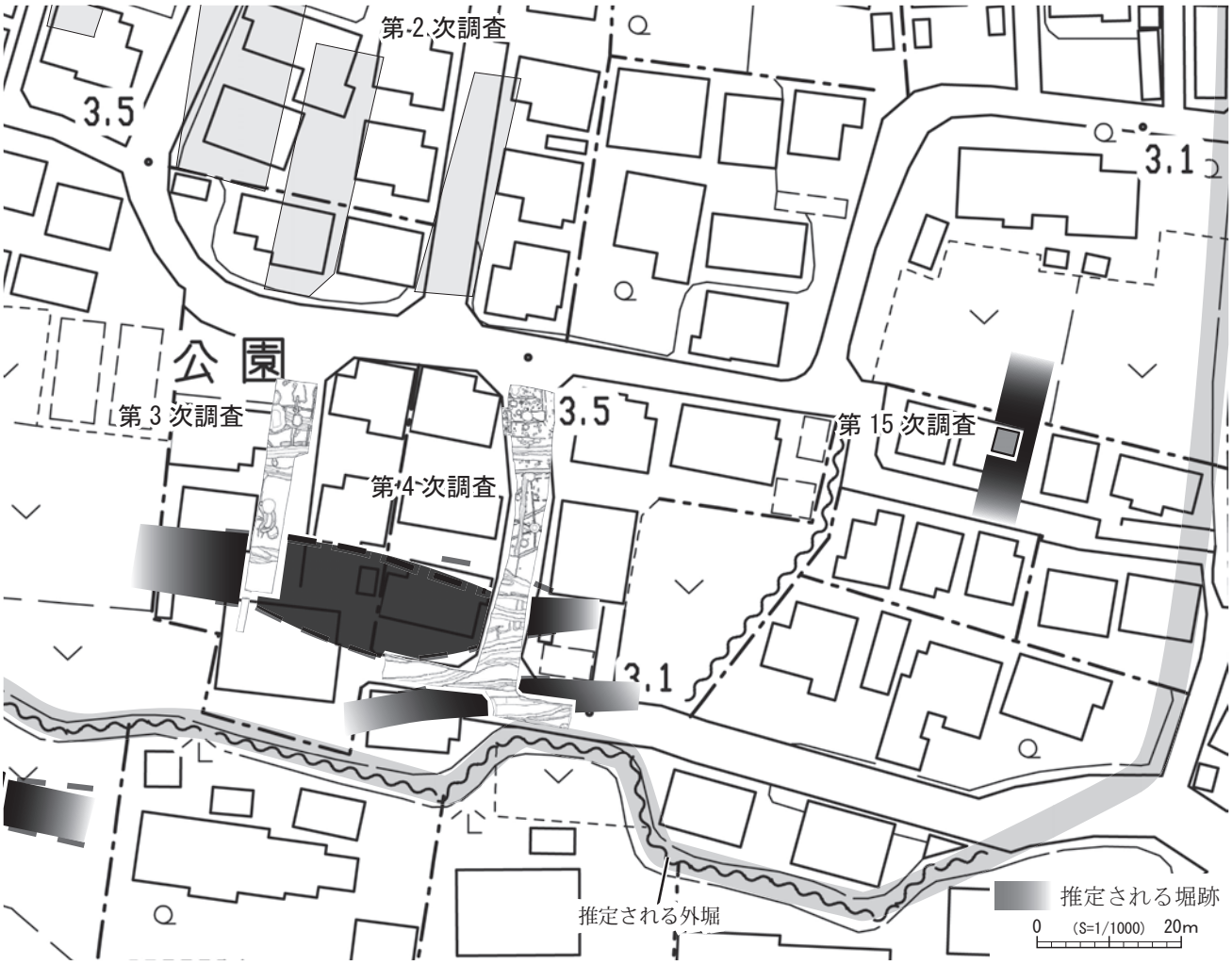
今回の調査地点は、今泉遺跡の中央部南東側、城館の外堀想定位置よりやや内側に位置する。今回の調査では溝跡が１条確認された。調査範囲が狭いことや、遺物の出土が少ないことから、時期などの詳細は不明であるが、遺構の規模や検出された位置から中世の城館に伴う堀跡である可能性が高い。仙台市史の城館編において、今泉城の



	層位	色調	土質	備考・混入物
基本層	Ⅰ	10YR3/3 暗褐色	シルト	均質
	Ⅱ	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	均質
SD1	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	粘土粒含む
	2a	10YR4/1 褐灰色	シルト	黒褐色、黄橙色粘土粒含む　多量　粒状
	2b	10YR4/1 褐灰色	シルト	2a 層より混入物少量、上面に酸化鉄が堆積
	2c	10YR4/1 褐灰色	シルト	2a 層より混入物多く、不均質
	2d	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化粒を極少量、酸化鉄を斑状に含む
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土	炭粒少量含む
	4a	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	明黄褐色粘土質シルト、黒色粘土ブロックを多量に含む　基本層Ⅰ層の崩落土か
	4b	10YR3/2 黒褐色	粘土	明黄褐色粘土質シルト、黒色粘土ブロック含む
	5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	均質

第 19 図　今泉遺跡第 15 次調査区平・断面図

外堀ラインが現況の区割りを基に推定されているが、最近の周囲の発掘調査で、この外堀推定線の内外でも堀跡と推定される大規模な溝跡が発見されていることから、城の防御施設が複合的であったと考えられている。なお、外堀推定ラインの内側の南・西辺側に位置する第３次・４次・11 次調査においても同様の堀跡が見つかっている。今回見つかった遺構は城跡の東側で初めて見つかった堀跡の事例になる。



第 20 図　今泉遺跡第 15 次調査区および周辺調査区の遺構

引用・参考文献

仙台市史編さん委員会　2006　『仙台市史　特別編７　城館』

仙台市教育委員会　1980　『今泉城跡』仙台市文化財調査報告書第 24 集（第 1 次）

仙台市教育委員会　1983　『今泉城跡』仙台市文化財調査報告書第 58 集（第 2 次）

仙台市教育委員会　1994　『今泉遺跡』仙台市文化財調査報告書第 185 集（第 3 次）

仙台市教育委員会　1995　『今泉遺跡』仙台市文化財調査報告書第 201 集（第 4 次）

仙台市教育委員会　2009　『仙台平野の遺跡群ⅩⅨ　平成 20 年度個人住宅他国庫補助事業に伴う発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第第 346 集（第 7 次）

仙台市教育委員会　2011　『法領塚古墳他』仙台市文化財調査報告書第 393 集（第 8 次）

仙台市教育委員会　2012　『仙台平野の遺跡群 22　平成 23 年度個人住宅他国庫補助事業に伴う発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第第 404 集（第 9 次）

仙台市教育委員会　2016　『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第第 448 集（第 10・11 次）

仙台市教育委員会　2016　『荒井南遺跡他』仙台市文化財調査報告書第 446 集（第 12 次）

仙台市教育委員会　2017　『仙台平野の遺跡群 27　平成 28 年度個人住宅他国庫補助事業に伴う発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第第 459 集（第 13 次）

仙台市教育委員会　2017　『沓形遺跡他　発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第第 458 集（第 14 次）

1．遺構検出状況（北から）

2．調査区南壁断面（北から）

写真図版８　今泉遺跡第 15 次調査（1）

1．遺構検出状況（西から）

2．調査区南・西壁断面（南から）

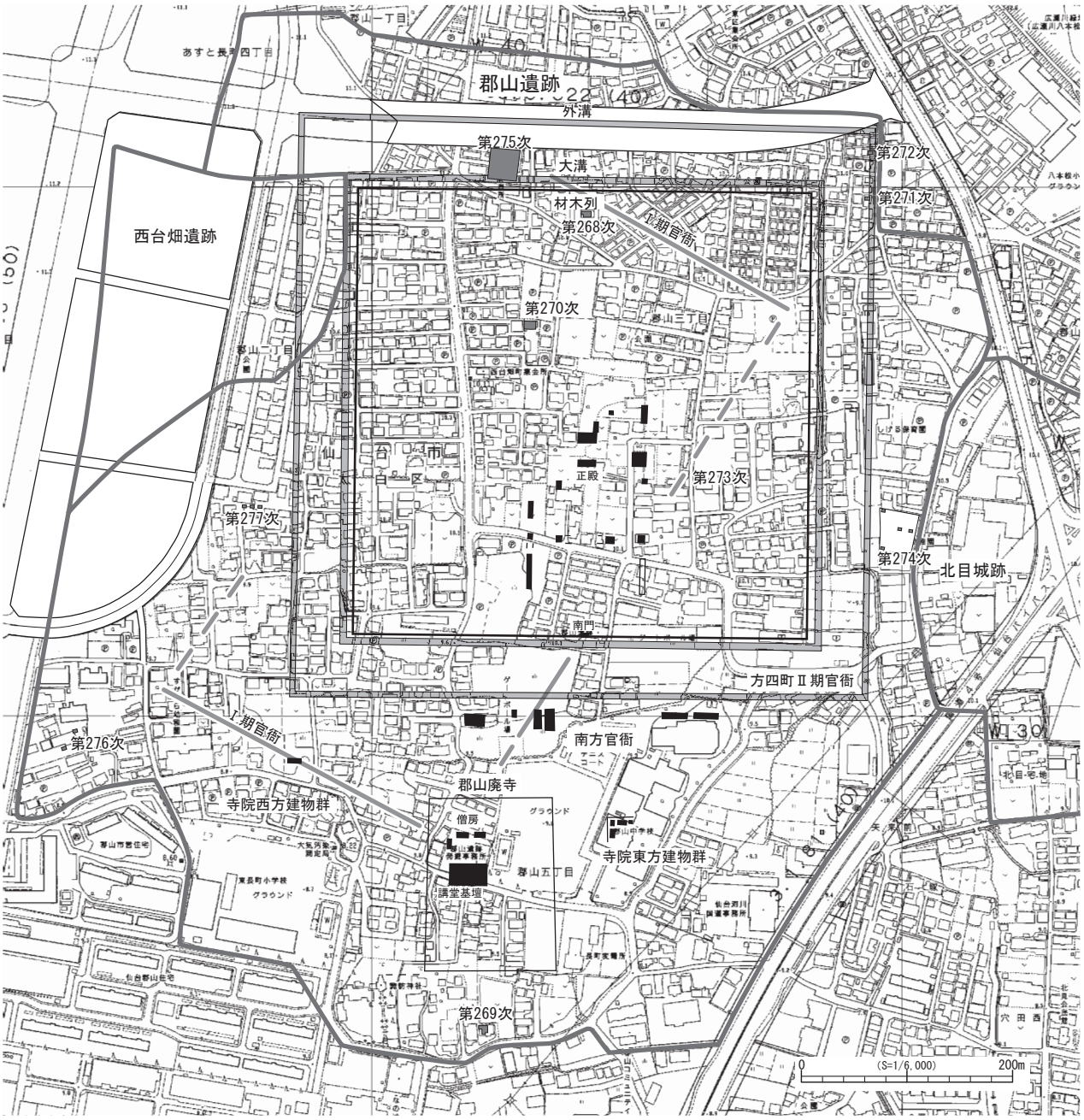
3．調査区南壁断面（北西から）

3．調査区東壁断面（西から）

写真図版９　今泉遺跡第 15 次調査（2）

第４章　郡山遺跡の調査

平成 29 年度に実施した発掘調査は、第３表・第 21 図のとおりである。なお個人住宅建築に伴う発掘調査の結果および抄録は、仙台市文化財調査報告書第 470 集『郡山遺跡 38』に所収している。



第 21 図　郡山遺跡調査区位置図

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
第 268 次	Ⅱ期官衙北部	93.0㎡	平成 29 年 2 月 6 日～ 3 月 16 日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
第 269 次	郡山遺跡南端部	45.05㎡	平成 29 年 3 月 13 日～ 3 月 24 日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
第 270 次	Ⅱ期官衙北部	84.7㎡	平成 29 年 4 月 20 日～ 5 月 1 日	長屋住宅建築	開発に伴う事前調査
第 271 次	Ⅱ期官衙北東部	12㎡	平成 29 年 6 月 12 日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
第 272 次	Ⅱ期官衙北東部	9㎡	平成 29 年 7 月 10 日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
第 273 次	Ⅱ期官衙東部	80.48㎡	平成 29 年 11 月 27 日～ 12 月 12 日	宅地造成	開発に伴う事前調査
第 274 次	郡山遺跡東端部	11.5㎡	平成 29 年 12 月 1 日	長屋住宅建築	開発に伴う事前調査
第 275 次	Ⅱ期官衙北部	295.64㎡	平成 29 年 12 月 14 日～平成 30 年 2 月 5 日	保育所建築	開発に伴う事前調査
第 276 次	郡山遺跡南西部	21㎡	平成 30 年 2 月 2 日	事務所兼倉庫建築	開発に伴う事前調査
第 277 次	郡山遺跡西部	18㎡	平成 30 年 2 月 1 日	共同住宅建築	開発に伴う事前調査

表３　平成 29 年度実施郡山遺跡発掘調査一覧（一部平成 28 年度実施分を含む）

第 5 章　総括

Ⅰ．燕沢遺跡第 15 次調査

今回の調査地点は遺跡の南東部に位置し、平成 7 年度に実施された第 9 次調査の調査区の一部である。第 9 次調査の際に検出された掘立柱建物跡 1 棟、土坑 3 基の再調査を行った。SB3 掘立柱建物跡では西妻柱列の N3W1 柱穴から柱の抜取り穴を新たに確認した。他の柱穴の柱痕跡からは平安時代の内面黒色処理がされた土師器の坏が出土した。また調査区からは均整唐草文の軒平瓦と「大日本永楽造」銘の京焼の磁器が出土した。磁器の製作者は京焼の陶工 14 代永楽得全で、明治 30 ～ 40 年頃の作であると考えられる。

Ⅱ．中在家南遺跡第 10 次調査

今回の調査では調査区全体で河川跡が確認された。西から東へ傾斜しながら堆積している状況から , 河川跡の西岸付近にあたるものと考えられる。この河川跡は過去の調査で確認されている河川跡の延長部分であると考えられる。遺物は堆積土中から弥生土器と石器などが出土した。

Ⅲ．今泉遺跡第 15 次調査

今回の調査地点は遺跡の東側に位置する。調査区からは南北方向の溝跡が検出された。出土遺物が少量で、時期は不明だが、溝跡は比較的規模が大型で、方位も周囲の区割りとも平行していることが確認された。近年今泉遺跡の城館の堀跡と推定される部分の内側と外側に、堀跡と推定される大型の溝跡が遺跡内の各地で検出されていることから、今回検出された溝跡も同様の事例であると考えられる。また城館の堀跡としては東側では初めての検出例になる。

Ⅳ．郡山遺跡

郡山遺跡においては、今年度 8 件の個人住宅の建築等に伴う発掘調査を実施した。詳細については仙台市文化財調査報告書第 470 集「郡山遺跡 38」に一部平成 28 年度に実施した調査成果も併せて記載している。

報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん							
書名	仙台平野の遺跡群							
副書名	平成 29 年度個人住宅他国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書							
巻次	28							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 469 集							
編著者名	及川謙作　佐藤　洋　髙橋純平　小林　航　妹尾一樹							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒 980-0011　仙台市青葉区上杉一丁目 5-12　仙台市役所　上杉分庁舎 10 階　TEL：022-214-8894							
発行年月日	平成 30 年 3 月 30 日							
所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	要約							
燕沢遺跡（第 15 次）	仙台市宮城野区燕沢東 3 丁目	4100	01001	38°　17′　24″	140°　56′　1″	2017. 8. 28 ～ 2017. 9. 11	63. 55 ㎡	記録保存（個人住宅新築）
	散布地・集落跡・寺院跡	縄文～平安		掘立柱建物跡・土坑		土師器・須恵器・瓦・磁器		
	掘立柱建物跡の妻柱列が検出された。また調査区からは土師器と軒丸瓦などが出土した。							
中在家南遺跡（10 次）	仙台市若林区荒井西土地区画整理事業地内	4100	01427	38°　14’　32″	140°　55’　58″	2017. 1. 12 ～ 2017. 1. 31	31. 25 ㎡	記録保存（個人住宅新築）
	土器棺墓・土坑墓・方形周溝墓・河川跡・水田跡	弥生～近世		河川跡		弥生土器・石器		
	河川跡の堆積土が検出された。堆積土中からは弥生土器や石器などが出土した。							
今泉遺跡（15 次）	仙台市若林区今泉 2 丁目	4100	01235	38°　12’　49″	140°　55’　41″	2017. 3. 1	9. 0 ㎡	記録保存（個人住宅新築）
	集落跡・城館跡・包含地	縄文～近世		溝跡		土師器		
	大型の溝跡が検出された。方位や遺構の規模から中世の城館の堀跡の一部と考えられる。							

仙台市文化財調査報告書第469集

仙台平野の遺跡群28

平成29年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

2018年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区上杉1丁目5－12
仙台市役所上杉分庁舎10階
文化財課　TEL 022（214）8894

印刷　株式会社 仙台紙工印刷
仙台市宮城野区苦竹三丁目１－14
TEL 022（231）2245㈹